

第 9 期 中間市
高齢者総合保健福祉計画
策定に係るアンケート調査結果

【概要版】

令和5年7月

目 次

第1章 調査の目的と実施概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 実施概要.....	1
(1) 調査方法.....	1
(2) 調査の対象者と配布数.....	1
(3) 抽出基準日.....	1
(4) 調査期間.....	1
3. 調査結果の見方.....	2
第2章 調査結果	3
I-I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	3
1. 調査対象者について.....	3
2. 家族や生活状況について.....	5
3. 地域での活動について.....	6
4. たすけあいについて.....	8
5. 健康について.....	9
6. 介護保険制度について.....	12
7. 高齢者への支援について.....	13
8. 今後の介護予防・高齢者福祉について.....	16
I-II 生活機能評価.....	17
2. 評価結果.....	17
II 在宅介護実態調査.....	20
A票 調査対象者について.....	20
B票 主な介護者について.....	31
第3章 調査結果の総括	35
I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ～日常生活圏域（小学校区）別特徴～.....	35
II 在宅介護実態調査.....	36

第1章 調査の目的と実施概要

1. 調査の目的

本調査は、令和6年度から令和8年度までを計画期間とする「第9期中間市高齢者総合保健福祉計画」の策定にあたり、市内の高齢者などの生活実態や健康状態等を把握し、これを計画策定の基礎資料とするために実施したものです。

2. 実施概要

(1) 調査方法

郵送による配布回収方式

(2) 調査の対象者と配布数

調査の対象者と配布数について、整理すると次のとおりです。

調査名	対象者	配布数	回収数	回収率	参考 前回回収率
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	65歳以上の要介護認定者以外	2,000票	1,318票	65.9%	68.3%
在宅介護実態調査	在宅の要介護認定者	1,000票	497票	49.7%	48.9%

(3) 抽出基準日

令和5年1月1日


(4) 調査期間

令和5年2月

※介護予防・日常生活圏域二一ズ調査とは、介護保険サービスの基盤整備や地域支援事業等の構築を進めるため、高齢者の要介護度の悪化につながるリスク等を把握した上で必要なサービスの種類・量・事業方法等を検討する地域診断のためのアンケート調査です。

※在宅介護実態調査とは、主として「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労継続」に有効な介護サービスのあり方を検討するための調査です。

3. 調査結果の見方

- ◇タイトル右には、設問に応じ、SA（単数回答）、MA（複数回答）を示しています。
- ◇各設問のカテゴリー（選択肢）等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。
- ◇集計結果のグラフのnの値は、当該設問の回答者数を示しています。
- ◇集計結果のグラフ・表における“無回答”には、当該設問への無回答の他、回答規則違反（例えば、SAの設問における複数回答など）の件数（票数）が含まれます。
- ◇集計結果のグラフ・表における比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して算出・表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ◇クロス集計表における  表示はその種別の第一位の項目（無回答を除く）を示しています。
- ◇クロス集計表は、全体は無回答を含めた回答数ですが、表側には無回答欄を設けていないため、表側の項目の回答者数の合計とは一致しません。
- ◇クロス集計によりカテゴリーごとの回答者数が少ない場合は、統計的な偏りが生まれる可能性が高くなるため、分析はせず、参考値として扱っている場合があります。

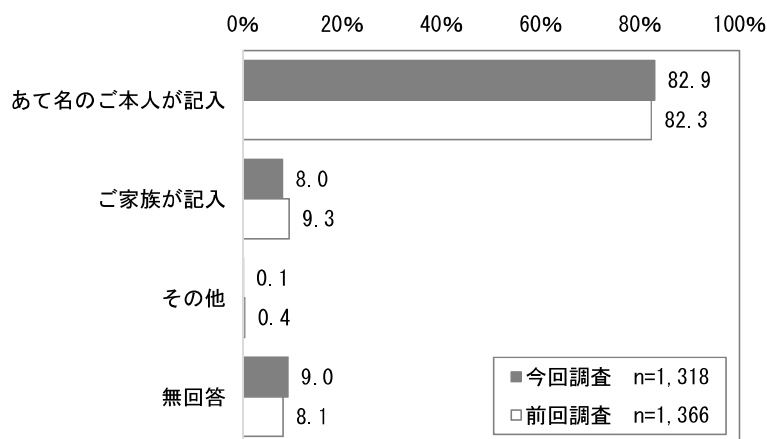
第2章 調査結果

I-I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

※生活機能評価に関する「運動」「食事」「生活」に関する設問は、I-IIの生活機能評価結果にまとめています。

調査票の記入者

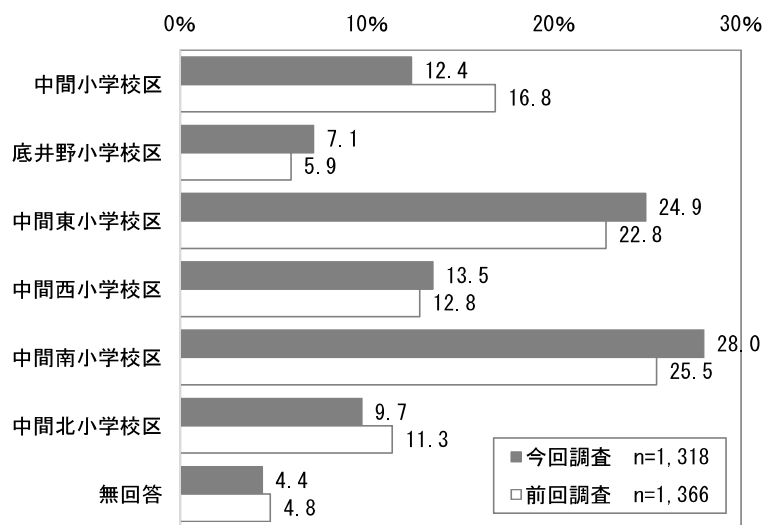
【SA】



1. 調査対象者について

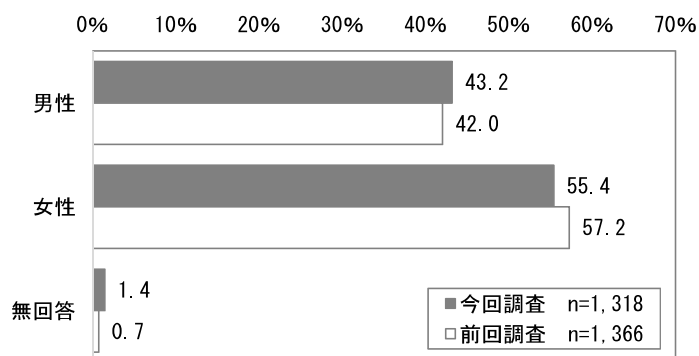
問1. 居住地区(日常生活圏域)

【SA】



問2. 性別

【SA】

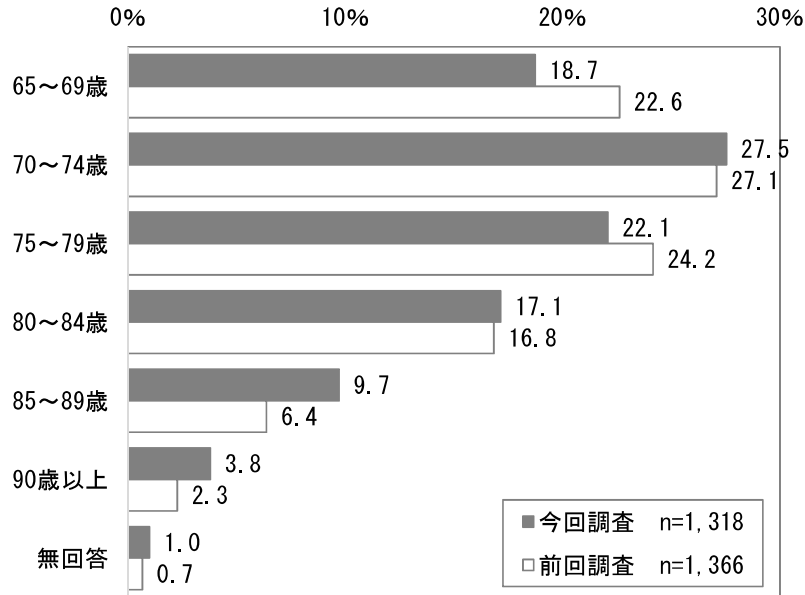


問3. 年齢

【SA】

○前期高齢者（65～74歳）は46.2%、後期高齢者（75歳以上）は52.7%となっています。

○前回調査と比べると、前期高齢者が3.5ポイント減少、後期高齢者が3.0ポイント増加しています。

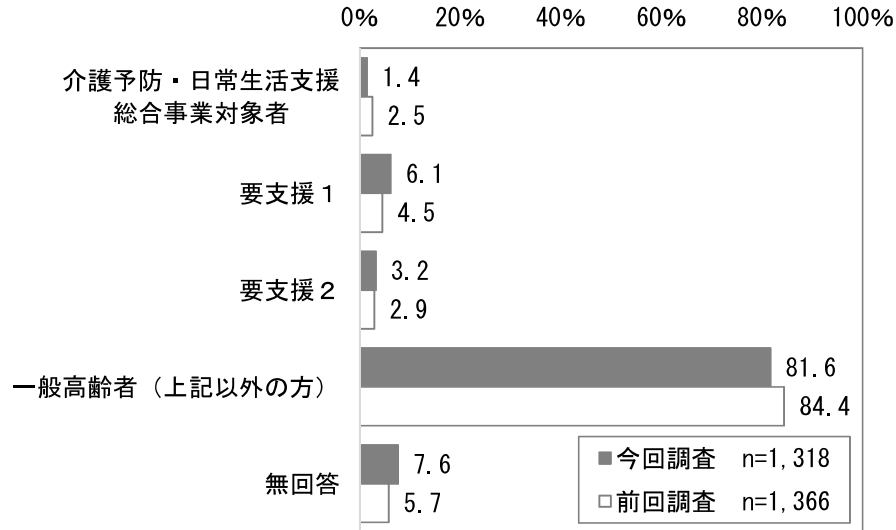


【単位】 上段：実数（人） 下段：割合（％）	合計	1-問3. 年齢						無回答	
		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上		
全体	1,318 100.0	247 18.7	363 27.5	291 22.1	226 17.1	128 9.7	50 3.8	13 1.0	
小学校区	中間小学校区	163 100.0	31 19.0	44 27.0	30 18.4	36 22.1	14 8.6	8 4.9	0 0.0
	底井野小学校区	94 100.0	19 20.2	26 27.7	21 22.3	8 8.5	18 19.1	2 2.1	0 0.0
	中間東小学校区	328 100.0	55 16.8	94 28.7	78 23.8	56 17.1	33 10.1	10 3.0	2 0.6
	中間西小学校区	178 100.0	34 19.1	53 29.8	42 23.6	33 18.5	12 6.7	4 2.2	0 0.0
	中間南小学校区	369 100.0	72 19.5	95 25.7	86 23.3	69 18.7	28 7.6	19 5.1	0 0.0
	中間北小学校区	128 100.0	29 22.7	40 31.3	23 18.0	18 14.1	12 9.4	6 4.7	0 0.0
	性別	男性	569 100.0	112 19.7	168 29.5	121 21.3	95 16.7	51 9.0	21 3.7
女性		730 100.0	135 18.5	194 26.6	169 23.2	126 17.3	76 10.4	29 4.0	1 0.1
要介護状態区分	介護予防・日常生活支援 総合事業対象者	19 100.0	2 10.5	6 31.6	3 15.8	1 5.3	4 21.1	3 15.8	0 0.0
	要支援1	81 100.0	2 2.5	5 6.2	11 13.6	22 27.2	24 29.6	16 19.8	1 1.2
	要支援2	42 100.0	1 2.4	3 7.1	7 16.7	12 28.6	10 23.8	9 21.4	0 0.0
	一般高齢者（上記以外の方）	1,076 100.0	226 21.0	323 30.0	252 23.4	176 16.4	80 7.4	19 1.8	0 0.0

問4. 要介護状態区分

【SA】

○「一般高齢者」が81.6%で最も割合が高く、次いで「要支援1」が6.1%、「要支援2」が3.2%、「介護予防・日常生活支援総合事業対象者」が1.4%の順となっています。

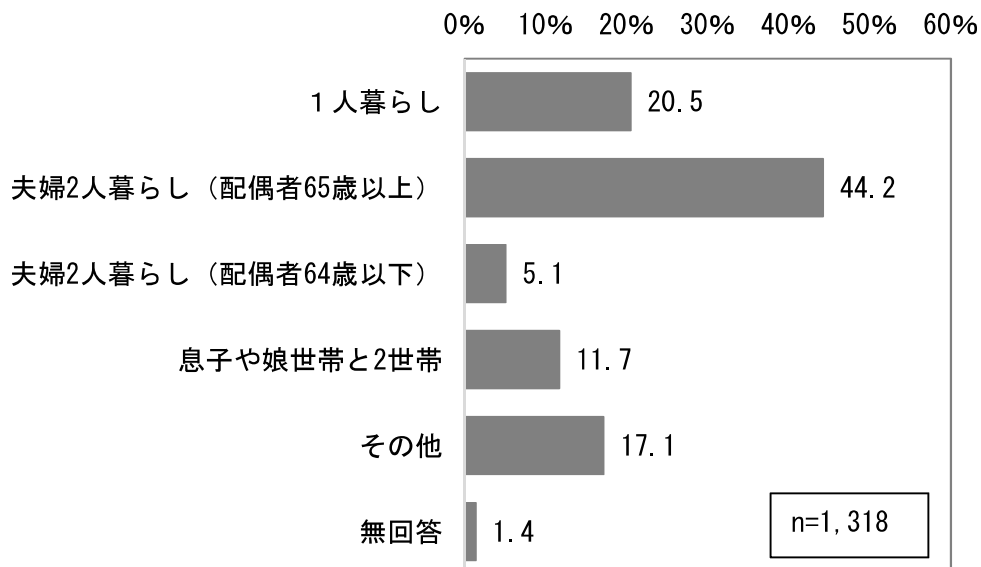


2. 家族や生活状況について

問1. 家族構成

【SA】

○「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が44.2%で最も割合が高く、次いで「1人暮らし」が20.5%、「その他」が17.1%の順となっています。

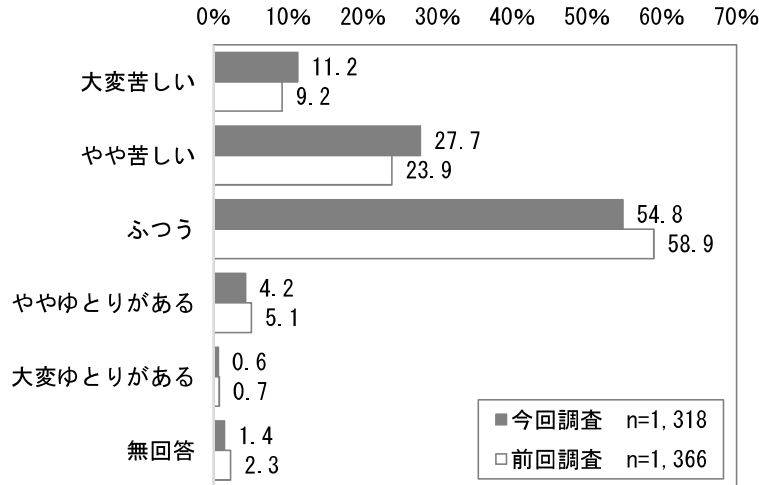


問3. 現在の暮らしの状況

【SA】

○「ふつう」が54.8%で最も割合が高く、次いで「やや苦しい」が27.7%、「大変苦しい」が11.2%の順となっています。

○「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は38.9%で、前回調査の33.1%から5.8ポイント増加しています。

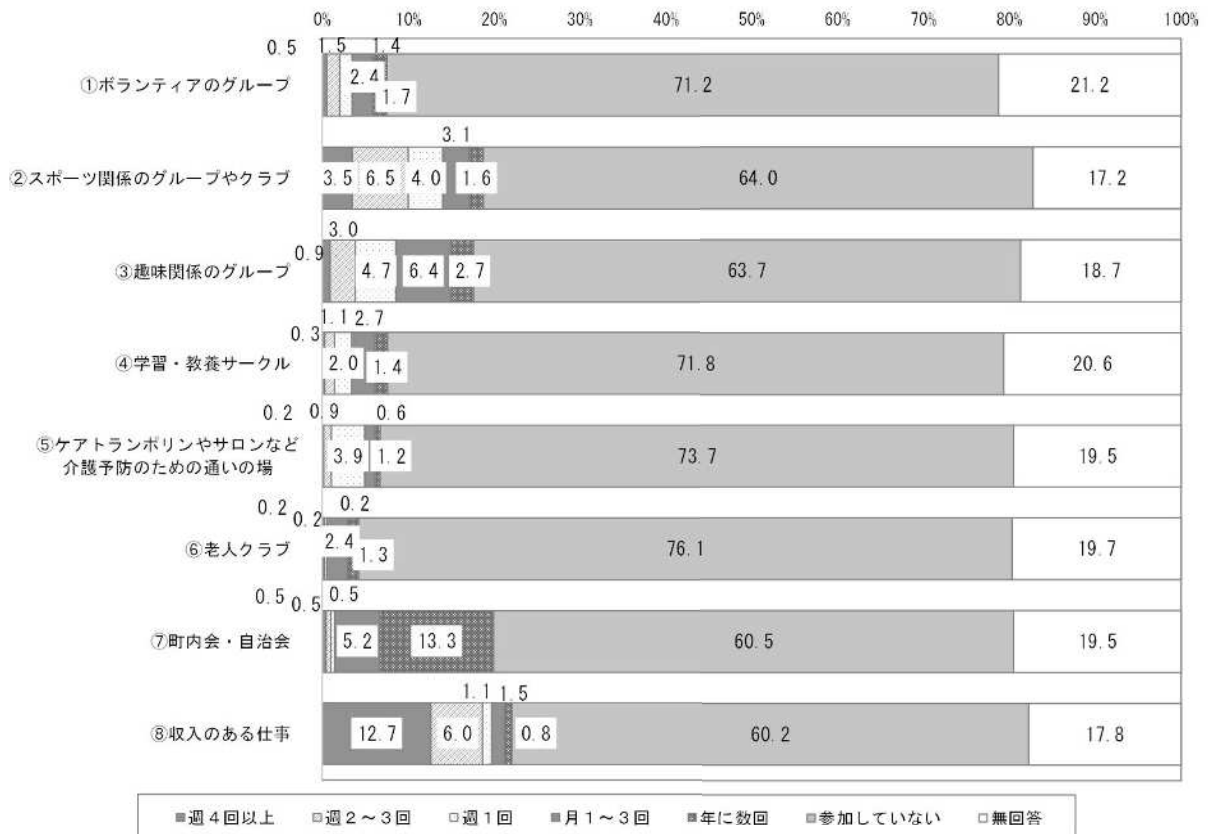


3. 地域での活動について

問1. 会・グループの参加頻度

【SA】

○「週4回以上」「週2～3回」「週1回」を合わせた『週1回以上』と比較すると、“⑧収入のある仕事”が19.8%で最も割合が高く、次いで“②スポーツ関係のグループやクラブ”が14.0%、“③趣味関係のグループ”が8.6%の順となっています。

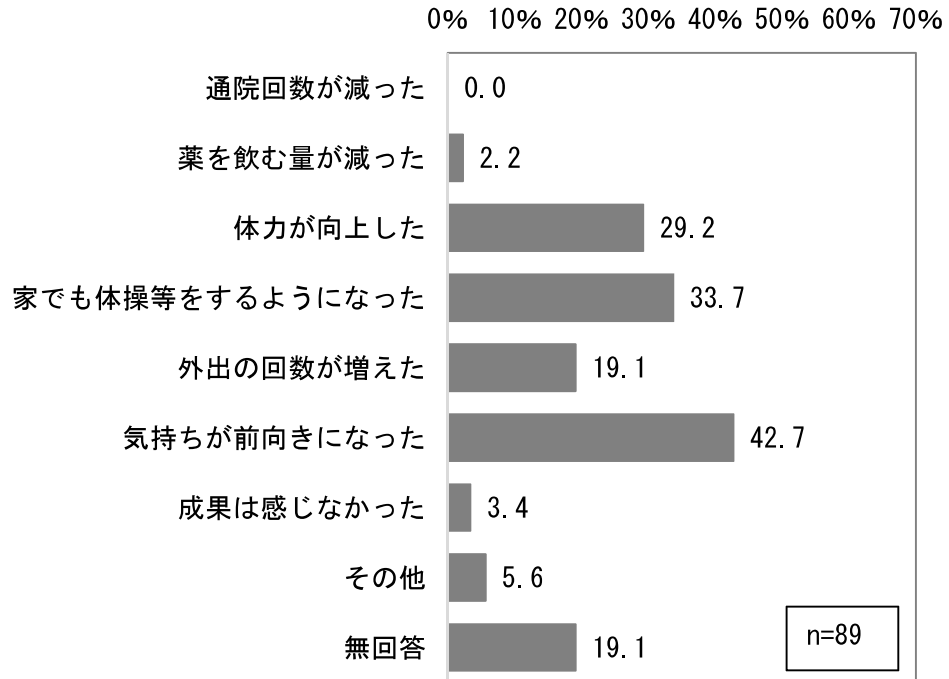


問2. 介護予防のための通いの場の成果や効果

【MA】

(問1の⑤で「参加していない」以外を選択した方限定)

- 「気持ちが前向きになった」が 42.7%で最も割合が高く、次いで「家でも体操等をするようになった」が 33.7%、「体力が向上した」が 29.2%の順となっています。
- 「成果は感じなかった」については、3.4%となっています。

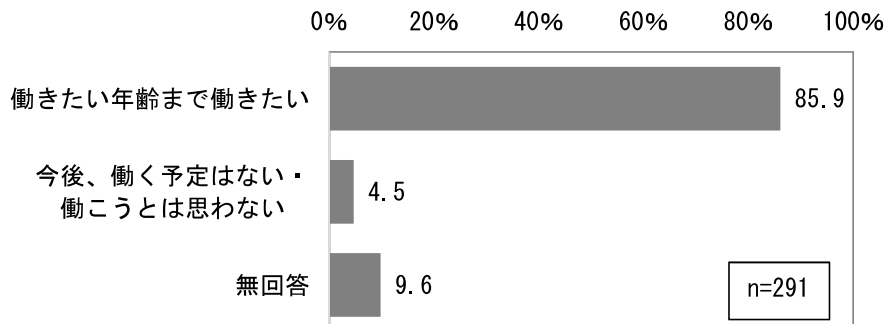


問3. 何歳まで働き続けたいか

【SA】

(問1の⑧で「参加していない」以外を選択した方限定)

- 「働きたい年齢まで働きたい」が 85.9%、「今後、働く予定はない・働こうとは思わない」が 4.5%となっています。

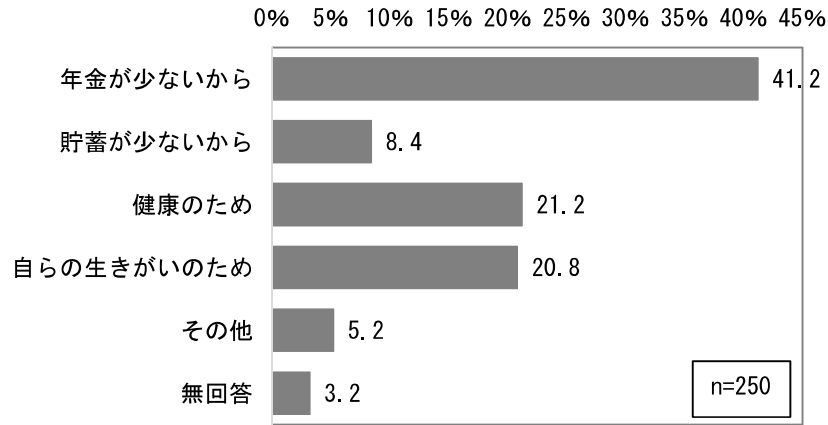


問3-(1). 働き続けたい理由

【SA】

(問3で「〇歳位まで働きたい」を選択した方限定)

○「年金が少ないから」が41.2%で最も割合が高く、次いで「健康のため」が21.2%、「自らの生きがいのため」が20.8%の順となっています。

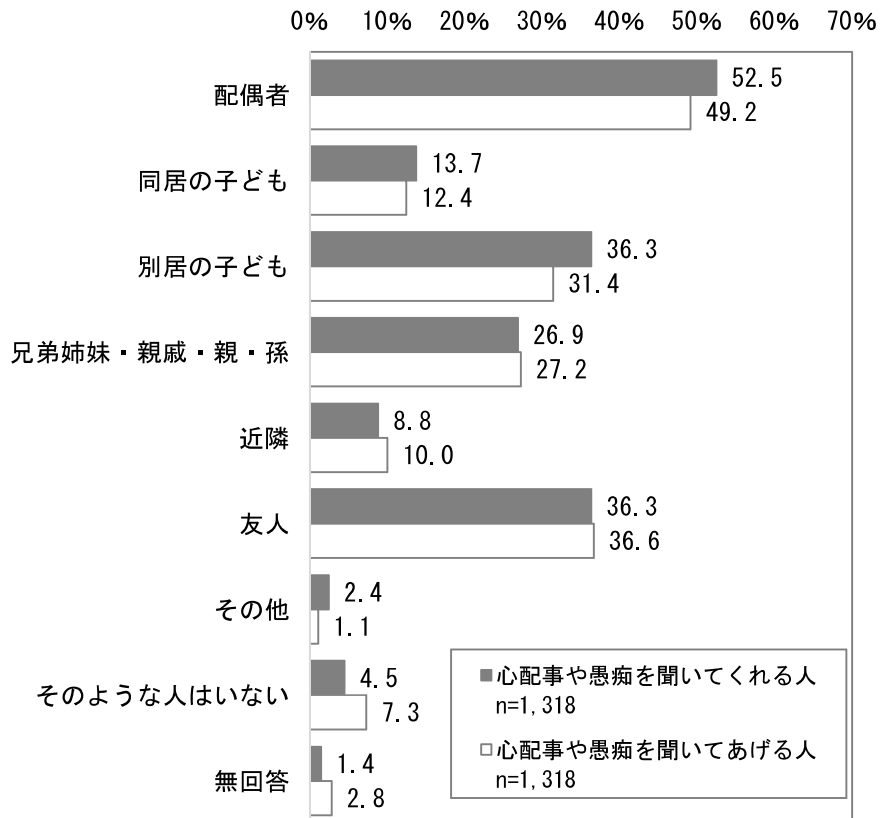


4. たすけあいについて

問1、2. 心配事や愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人

【MA】

○心配事や愚痴を聞いてくれる人、心配事や愚痴を聞いてあげる人は、どちらも「配偶者」が最も割合が高く、いずれも約5割となっています。
○心配事や愚痴を聞いてくれる人、心配事や愚痴を聞いてあげる人のいずれも、「そのような人はいない」がわずかながら選択されています。

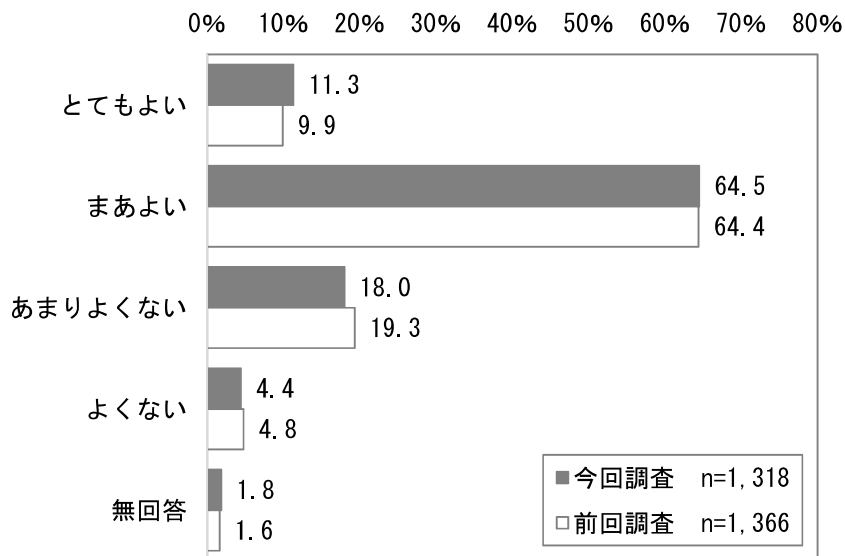


5. 健康について

問1. 主観的健康感

【SA】

○「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『健康だと思う』が75.8%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『健康でないと思う』が22.4%となっています。



問2. 主観的幸福感

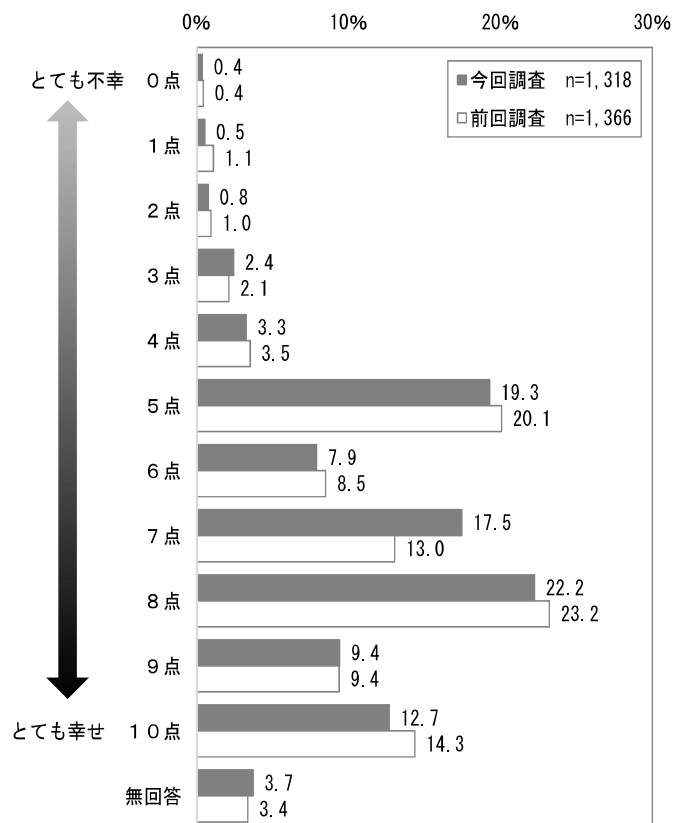
【SA】

○「8点」が22.2%で最も割合が高く、次いで「5点」が19.3%、「7点」が17.5%の順で、平均点は7.04点で前回調査とほぼ同率となっています。

○平均点を小学校区別にみると、“底井野小学校区”が7.23点、“中間南小学校区”が7.25点と、全体の平均点を上回っています。

○平均点を性別にみると、“男性”の6.76点に対し、“女性”は7.24点と高くなっています。

○平均点を要介護状態区別にみると、“介護予防・日常生活支援総合事業対象者”は5.95点と他に比べ低くなっています。



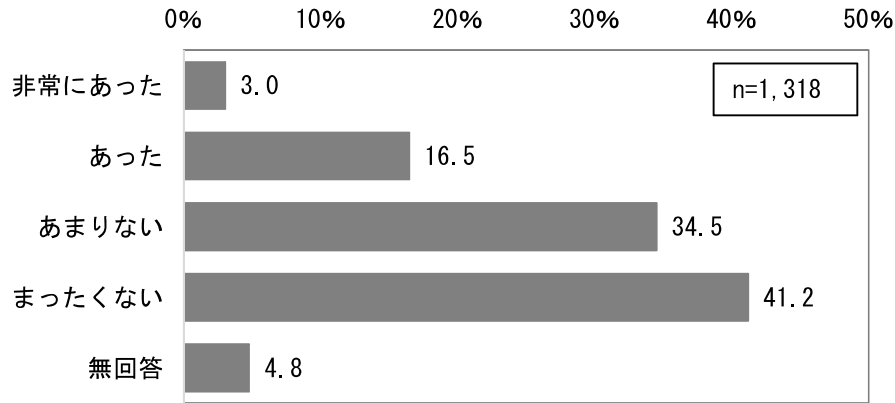
【単位】 上段：実数（人） 下段：割合（％）	合計	8-問2. 主観的幸福感											平均点		
		0点 とても不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 とても幸せ		無回答	
全体	1,318 100.0	5 0.4	7 0.5	10 0.8	32 2.4	43 3.3	254 19.3	104 7.9	230 17.5	293 22.2	124 9.4	167 12.7	49 3.7	7.04	
小学校区	中間小学校区	163 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 2.5	9 5.5	39 23.9	7 4.3	25 15.3	33 20.2	19 11.7	17 10.4	10 6.1	6.96
	底井野小学校区	94 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	2 2.1	2 2.1	14 14.9	7 7.4	21 22.3	25 26.6	7 7.4	12 12.8	3 3.2	7.23
	中間東小学校区	328 100.0	2 0.6	3 0.9	6 1.8	6 1.8	10 3.0	63 19.2	16 4.9	62 18.9	77 23.5	26 7.9	46 14.0	11 3.4	7.03
	中間西小学校区	178 100.0	0 0.0	3 1.7	0 0.0	5 2.8	5 2.8	44 24.7	15 8.4	28 15.7	41 23.0	14 7.9	18 10.1	5 2.8	6.81
	中間南小学校区	369 100.0	2 0.5	0 0.0	2 0.5	8 2.2	10 2.7	55 14.9	41 11.1	64 17.3	78 21.1	47 12.7	51 13.8	11 3.0	7.25
	中間北小学校区	128 100.0	0 0.0	1 0.8	0 0.0	2 1.6	7 5.5	30 23.4	11 8.6	25 19.5	30 23.4	7 5.5	10 7.8	5 3.9	6.74
	性別	男性	569 100.0	4 0.7	3 0.5	6 1.1	17 3.0	26 4.6	115 20.2	60 10.5	100 17.6	110 19.3	46 8.1	60 10.5	22 3.9
女性		730 100.0	0 0.0	4 0.5	4 0.5	14 1.9	17 2.3	137 18.8	43 5.9	129 17.7	177 24.2	77 10.5	103 14.1	25 3.4	7.24
年齢	65～69歳	247 100.0	1 0.4	2 0.8	1 0.4	7 2.8	6 2.4	50 20.2	20 8.1	46 18.6	53 21.5	25 10.1	24 9.7	12 4.9	6.94
	70～74歳	363 100.0	0 0.0	3 0.8	4 1.1	4 1.1	20 5.5	70 19.3	31 8.5	59 16.3	82 22.6	37 10.2	45 12.4	8 2.2	7.02
	75～79歳	291 100.0	1 0.3	0 0.0	1 0.3	11 3.8	8 2.7	50 17.2	23 7.9	68 23.4	62 21.3	18 6.2	39 13.4	10 3.4	7.04
	80～84歳	226 100.0	1 0.4	0 0.0	3 1.3	4 1.8	4 1.8	49 21.7	20 8.8	29 12.8	53 23.5	25 11.1	29 12.8	9 4.0	7.10
	85～89歳	128 100.0	0 0.0	2 1.6	1 0.8	2 1.6	5 3.9	24 18.8	7 5.5	16 12.5	34 26.6	12 9.4	17 13.3	8 6.3	7.12
	90歳以上	50 100.0	2 4.0	0 0.0	0 0.0	2 4.0	0 0.0	9 18.0	3 6.0	11 22.0	6 12.0	6 12.0	10 20.0	1 2.0	7.10
要介護状態区分	介護予防・日常生活支援 総合事業対象者	19 100.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	2 10.5	1 5.3	5 26.3	3 15.8	2 10.5	2 10.5	2 10.5	1 5.3	0 0.0	5.95
	要支援1	81 100.0	1 1.2	0 0.0	2 2.5	6 7.4	3 3.7	16 19.8	1 1.2	18 22.2	14 17.3	8 9.9	9 11.1	3 3.7	6.67
	要支援2	42 100.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4	1 2.4	1 2.4	15 35.7	6 14.3	2 4.8	5 11.9	5 12.1	6 14.3	4 9.5	6.39
	一般高齢者（上記以外の方）	1,076 100.0	4 0.4	7 0.7	6 0.6	20 1.9	34 3.2	197 18.3	90 8.4	198 18.4	244 22.7	105 9.8	137 12.7	34 3.2	7.10

問6. 感染症の影響による精神的・身体的な変化

【SA】

○「まったくない」が41.2%で最も割合が高く、次いで「あまりない」が34.5%の順となっています。「非常にあった」と「あった」を合わせた『あった』は19.5%となっています。

○『あった』について小学校区別にみると“中間西小学校区”と“中間北小学校区”、“底井野小学校区”、性別にみると“女性”で割合が高くなっています。



【単位】		合計	8-問7. 感染症の影響による精神的・身体的な変化				
上段：実数 (人)	下段：割合 (%)		非常にあった	あった	あまりない	まったくない	無回答
全体		1,318	40	217	455	543	63
		100.0	3.0	16.5	34.5	41.2	4.8
小学校区	中間小学校区	163	9	23	45	75	11
		100.0	5.5	14.1	27.6	46.0	6.7
	底井野小学校区	94	1	18	32	42	1
		100.0	1.1	19.1	34.0	44.7	1.1
	中間東小学校区	328	13	47	115	135	18
		100.0	4.0	14.3	35.1	41.2	5.5
	中間西小学校区	178	6	34	63	68	7
	100.0	3.4	19.1	35.4	38.2	3.9	
小学校区	中間南小学校区	369	8	60	133	157	11
		100.0	2.2	16.3	36.0	42.5	3.0
	中間北小学校区	128	2	28	51	41	6
		100.0	1.6	21.9	39.8	32.0	4.7
性別	男性	569	14	82	199	248	26
		100.0	2.5	14.4	35.0	43.6	4.6
	女性	730	25	132	253	286	34
		100.0	3.4	18.1	34.7	39.2	4.7
年齢	65～69歳	247	10	36	84	111	6
		100.0	4.0	14.6	34.0	44.9	2.4
	70～74歳	363	7	55	131	154	16
		100.0	1.9	15.2	36.1	42.4	4.4
	75～79歳	291	9	46	112	111	13
		100.0	3.1	15.8	38.5	38.1	4.5
	80～84歳	226	9	43	73	88	13
	100.0	4.0	19.0	32.3	38.9	5.8	
年齢	85～89歳	128	5	27	35	52	9
		100.0	3.9	21.1	27.3	40.6	7.0
	90歳以上	50	0	6	17	23	4
		100.0	0.0	12.0	34.0	46.0	8.0
要介護状態区分	介護予防・日常生活支援総合事業対象者	19	3	3	5	6	2
		100.0	15.8	15.8	26.3	31.6	10.5
	要支援1	81	2	19	23	34	3
		100.0	2.5	23.5	28.4	42.0	3.7
	要支援2	42	2	10	15	14	1
	100.0	4.8	23.8	35.7	33.3	2.4	
	一般高齢者（上記以外の方）	1,076	27	170	383	450	46
	100.0	2.5	15.8	35.6	41.8	4.3	

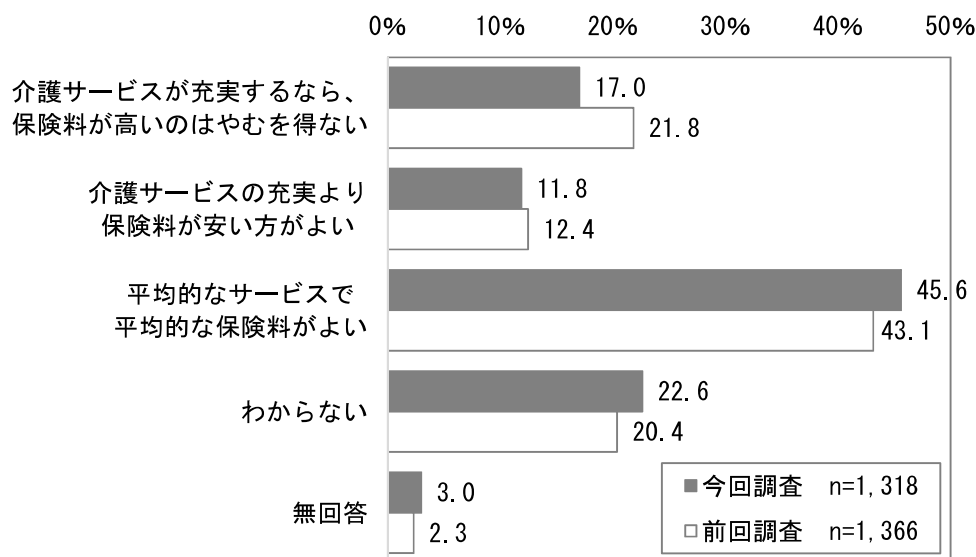
6. 介護保険制度について

問2. 介護保険サービスと介護保険料のバランス

【SA】

○「平均的なサービスで平均的な保険料がよい」が45.6%で最も割合が高く、次いで「わからない」が22.6%、「介護サービスが充実するなら、保険料が高いのはやむを得ない」が17.0%、「介護サービスの充実より保険料が安い方がよい」が11.8%の順となっています。

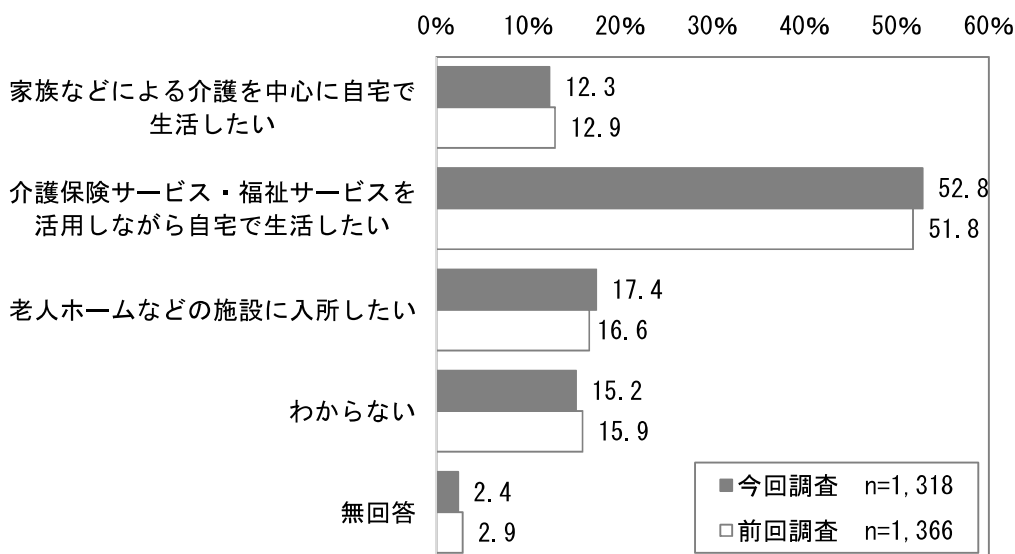
○「介護サービスが充実するなら、保険料が高いのはやむを得ない」は前回調査の21.8%から17.0%と、4.8ポイント減少しています。



問3. 介護が必要になったときに望む生活

【SA】

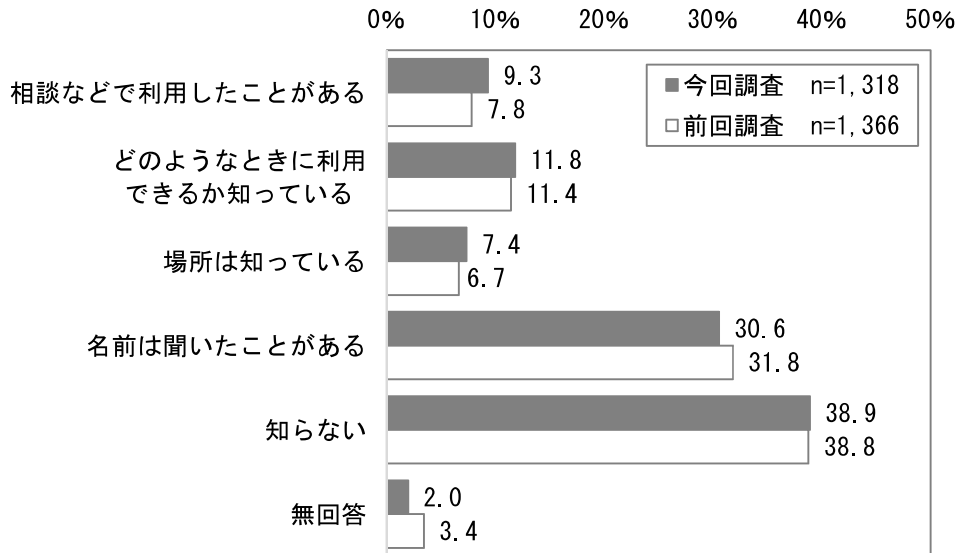
○「介護保険サービス・福祉サービスを活用しながら自宅で生活したい」と「家族などによる介護を中心に自宅で生活したい」を合わせた『自宅での生活を希望』は65.1%となっている一方で、「老人ホームなどの施設に入所したい」は17.4%となっています。



問4. 「地域包括支援センター」の認知度

【SA】

○「知らない」が38.9%で最も割合が高く、次いで「名前は聞いたことがある」が30.6%、「どのようなときに利用できるか知っている」が11.8%、「相談などで利用したことがある」が9.3%、「場所は知っている」が7.4%の順となっています。

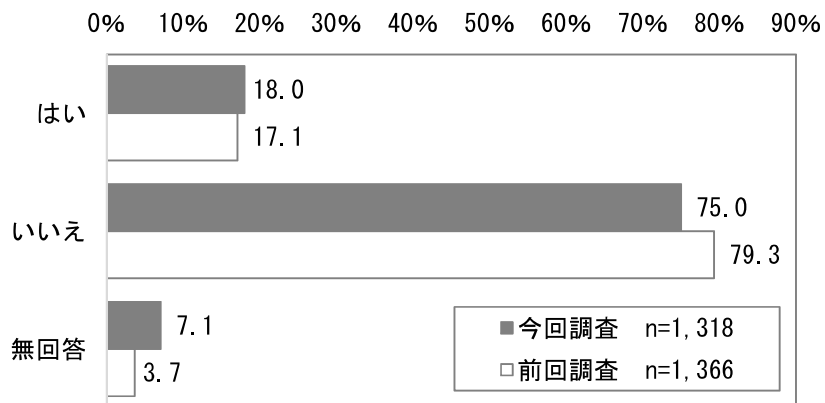


7. 高齢者への支援について

問2. 認知症に関する相談窓口の認知度

【SA】

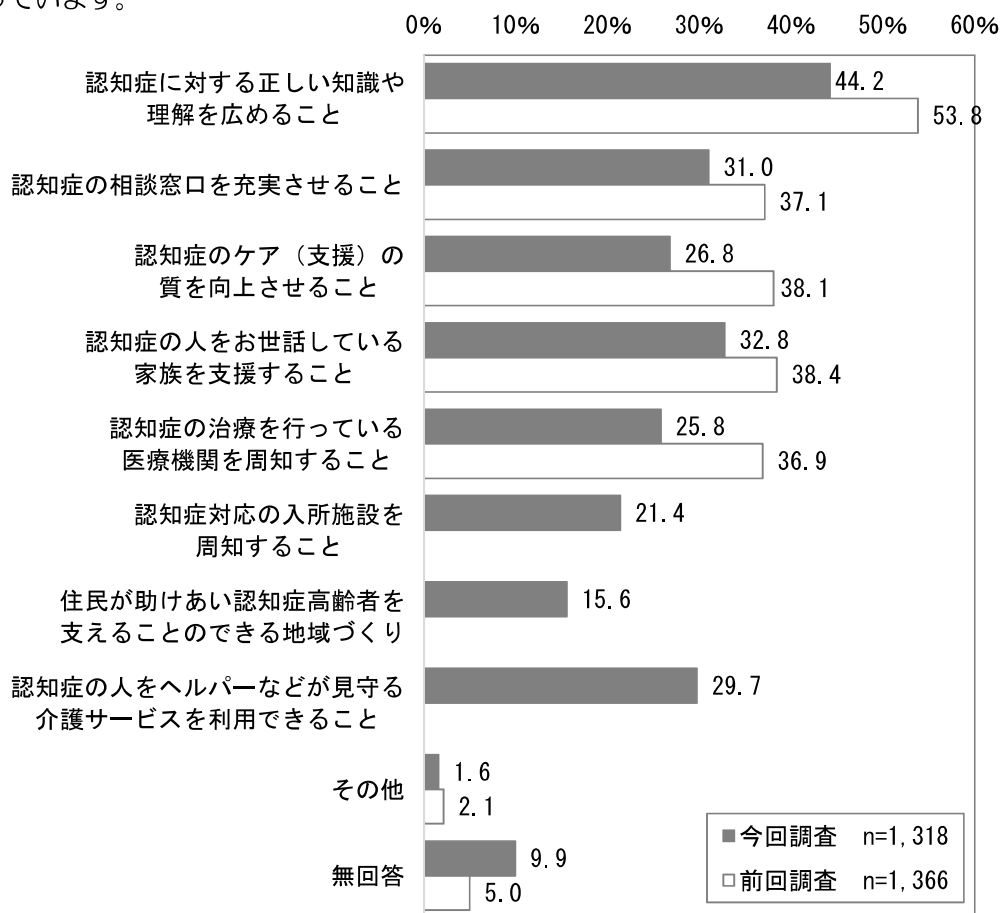
○「はい」が18.0%、「いいえ」が75.0%となっています。



問3. 認知症の人が安心して暮らすために必要な取組み

【MA】

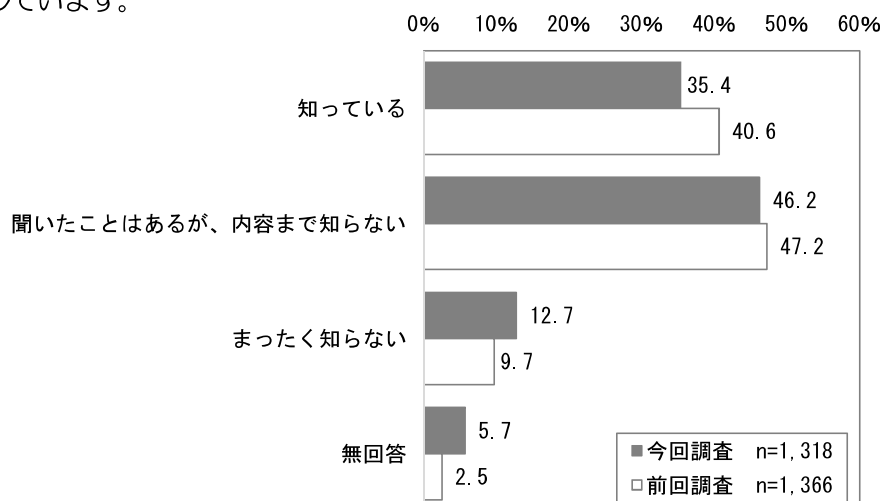
○「認知症に対する正しい知識や理解を広めること」が 44.2%で最も割合が高く、次いで「認知症の人をお世話している家族を支援すること」が 32.8%、「認知症の相談窓口を充実させること」が 31.0%、「認知症の人をヘルパーなどが見守る介護サービスを利用できること」が 29.7%の順となっています。



問4. 高齢者虐待の認知度

【SA】

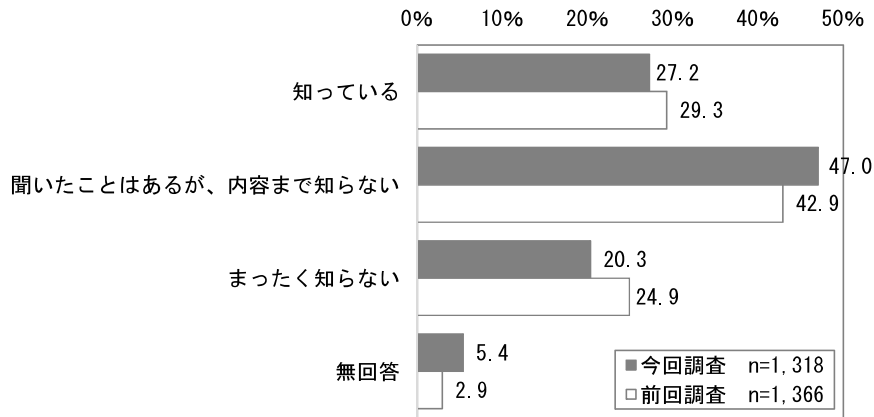
○「聞いたことはあるが、内容まで知らない」が 46.2%で最も割合が高く、次いで「知っている」が 35.4%となっています。「まったく知らない」は 12.7%と、前回調査の 9.7%から 3.0ポイント増加しています。



問5. 成年後見制度の認知度

【SA】

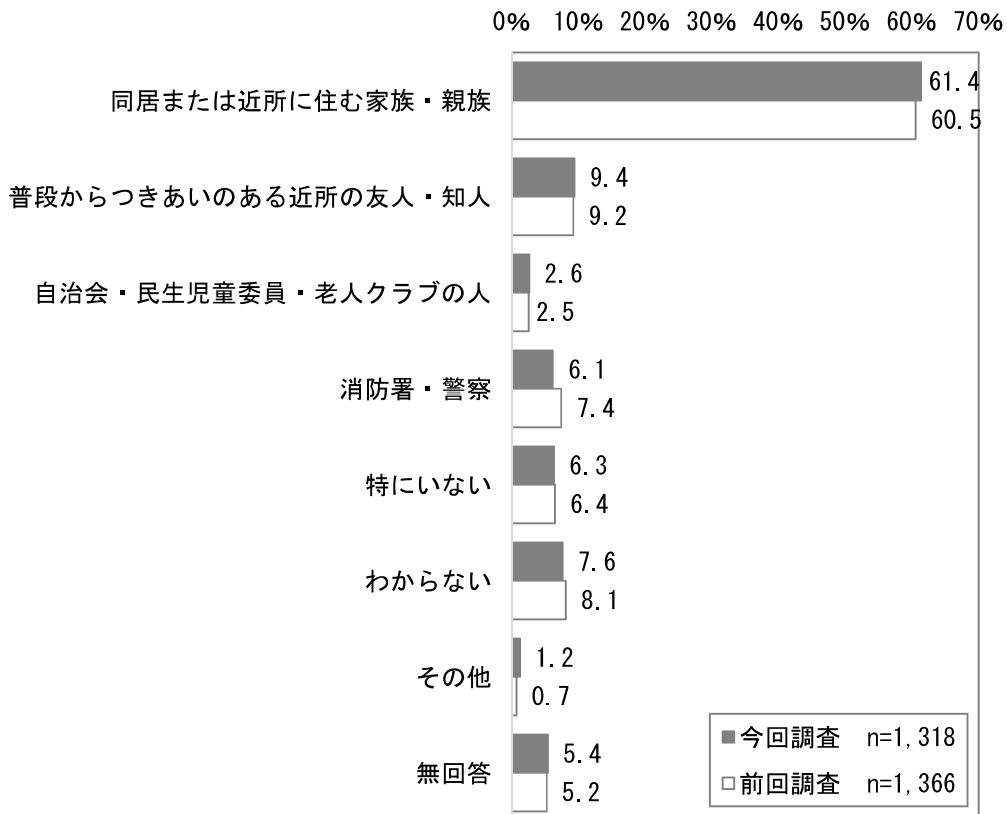
○「聞いたことはあるが、内容まで知らない」が47.0%で最も割合が高く、次いで「知っている」が27.2%、「まったく知らない」が20.3%の順となっています。



問6. 災害で手助けしてくれる人

【SA】

○「同居または近所に住む家族・親族」が61.4%で最も割合が高く、次いで「普段からつきあいのある近所の友人・知人」が9.4%、「わからない」が7.6%、「特にいない」が6.3%の順となっています。

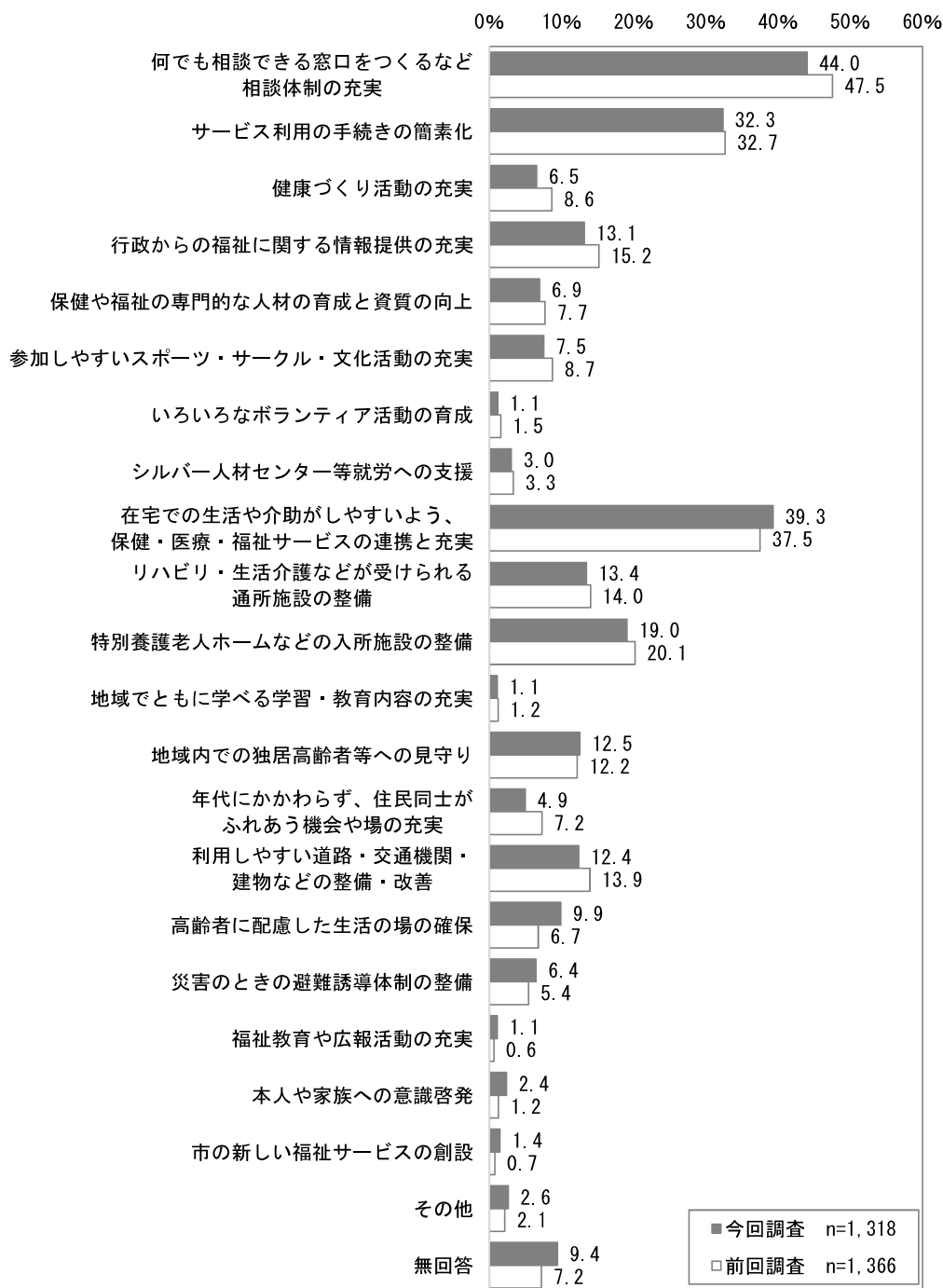


8. 今後の介護予防・高齢者福祉について

問1. 高齢者がすこやかに過ごすために力を入れるべき施策

【MA】

○「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が44.0%で最も割合が高く、次いで「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉サービスの連携と充実」が39.3%、「サービス利用の手続きの簡素化」が32.3%の順となっています。



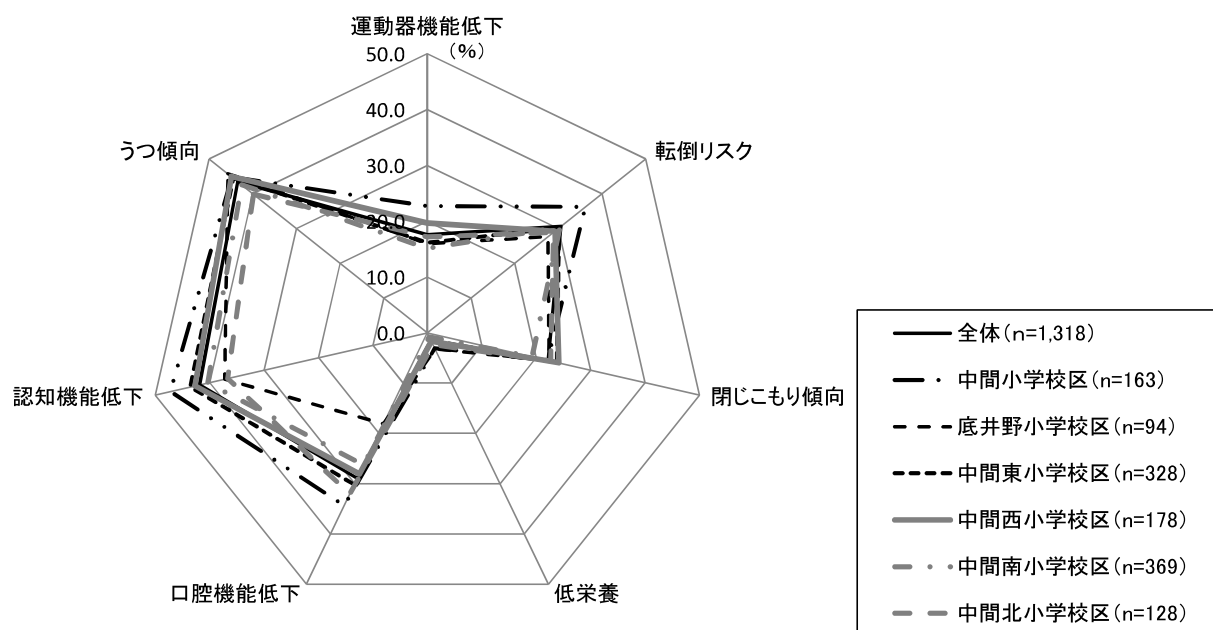
1-2 生活機能評価

2. 評価結果

1. 生活機能

○ 小学校区別該当者割合

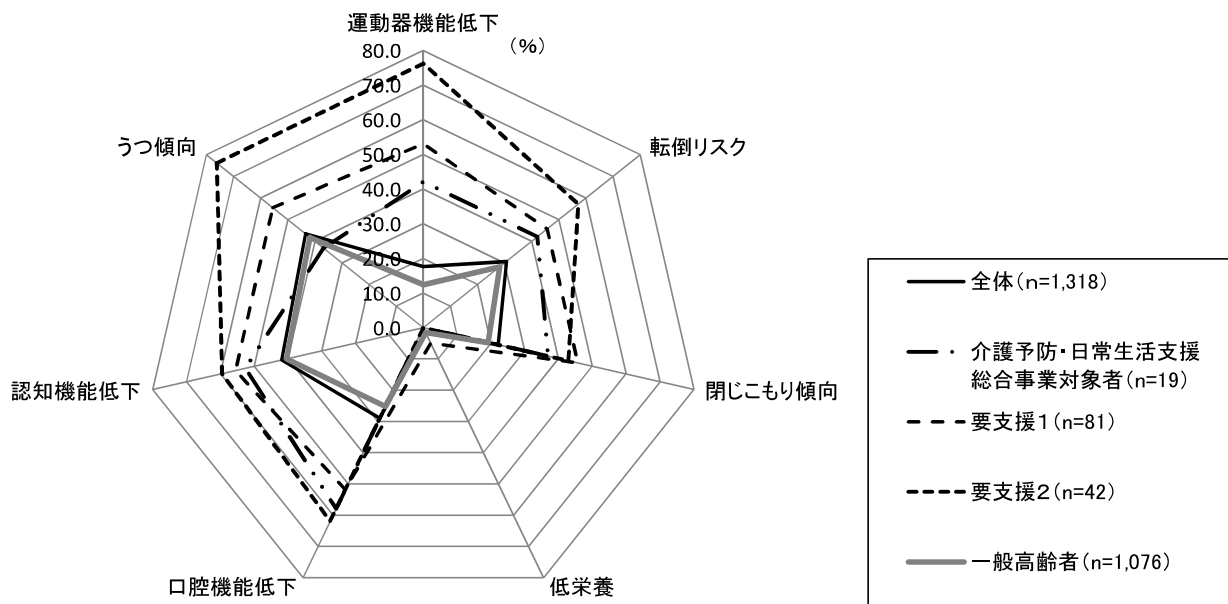
○生活機能の評価項目ごとの該当者（リスク者）の割合を小学校区別にみると、「閉じこもり傾向」は“中間西小学校区”、「低栄養」と「うつ傾向」は“底井野小学校区”、他の項目は“中間小学校区”の割合がそれぞれ最も高くなっています。



単位：%	全体 n=1,318	中間 小学校区 n=163	底井野 小学校区 n=94	中間東 小学校区 n=328	中間西 小学校区 n=178	中間南 小学校区 n=369	中間北 小学校区 n=128
運動器機能低下	17.6	22.7	16.0	16.2	19.7	15.2	17.2
転倒リスク	30.7	36.2	27.7	30.2	29.2	30.4	28.9
閉じこもり傾向	22.2	22.1	22.3	23.8	24.2	19.2	22.7
低栄養	1.7	3.1	3.2	1.5	1.7	0.8	2.3
口腔機能低下	28.9	34.4	18.1	30.2	28.1	26.3	32.0
認知機能低下	41.9	47.2	37.2	43.6	42.7	40.4	36.7
うつ傾向	43.5	44.8	45.7	44.5	44.9	42.5	39.8

○ 要介護状態区分別該当者割合

○生活機能の評価項目ごとの該当者（リスク者）の割合を要介護状態区分別にみると、「閉じこもり傾向」「低栄養」は“要支援1”、他の項目は“要支援2”の割合がそれぞれ最も高くなっています。

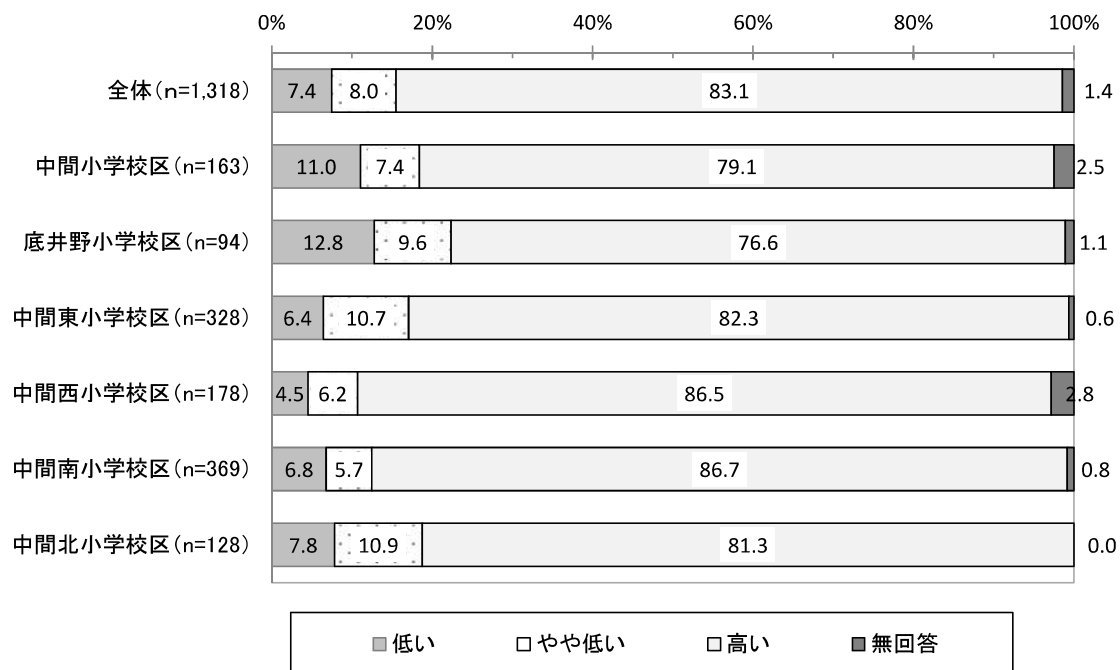


単位：%	全体 n=1,318	介護予防・日常生活支援 総合事業対象者 n=19	要支援1 n=81	要支援2 n=42	一般高齢者 n=1,076
運動器機能低下	17.6	42.1	53.1	76.2	12.4
転倒リスク	30.7	42.1	45.7	57.1	28.2
閉じこもり傾向	22.2	36.8	45.7	42.9	19.1
低栄養	1.7	0.0	4.9	0.0	1.6
口腔機能低下	28.9	57.9	51.9	61.9	25.2
認知機能低下	41.9	52.6	55.6	59.5	40.4
うつ傾向	43.5	36.8	55.6	76.2	41.7

2. 老研式活動能力指標

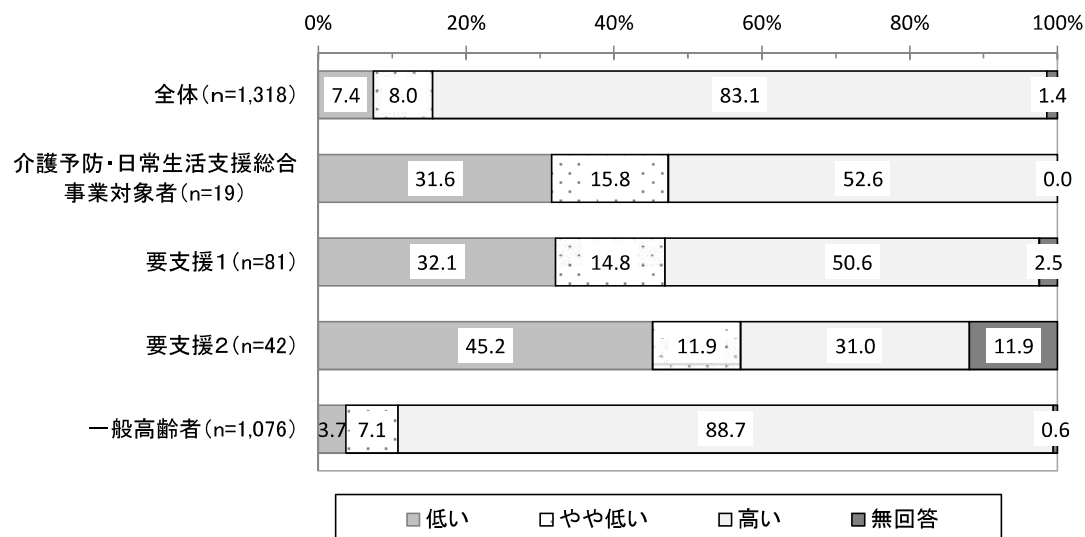
○ 小学校区別の手段的自立度（IADL）

○小学校区別にみると、「低い」「やや低い」を合わせた『低い』の割合は、“底井野小学校区”の22.4%が最も高く、“中間西小学校区”の10.7%が最も低くなっています。



○ 要介護状態区分別

○要介護度状態区分別にみると、「低い」「やや低い」を合わせた『低い』の割合は、重度であるほど割合が高くなる傾向で、“要支援2”では57.1%となっています。



II 在宅介護実態調査

A票 調査対象者について

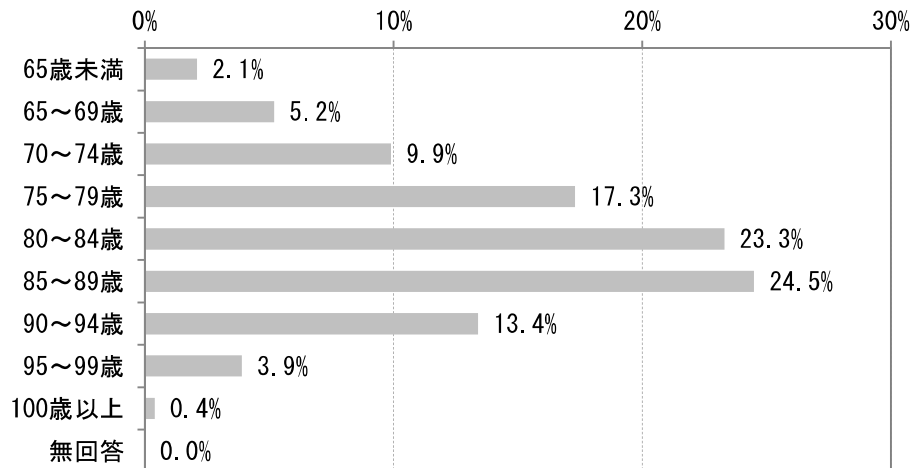
①年齢

【SA】

○「85～89歳」が24.5%で最も割合が高く、次いで「80～84歳」が23.3%、「75～79歳」が17.3%の順となっています。

○前期高齢者（65～74歳）は15.1%、後期高齢者（75歳以上）は82.8%となっています。

合計(n=485)

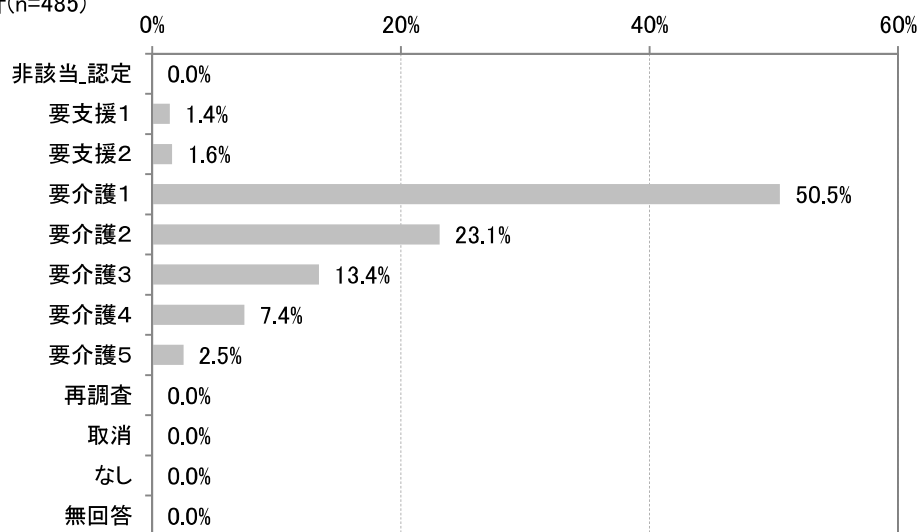


③二次判定結果(要介護度)

【SA】

○「要介護1」のが50.5%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が23.1%、「要介護3」が13.4%の順となっています。

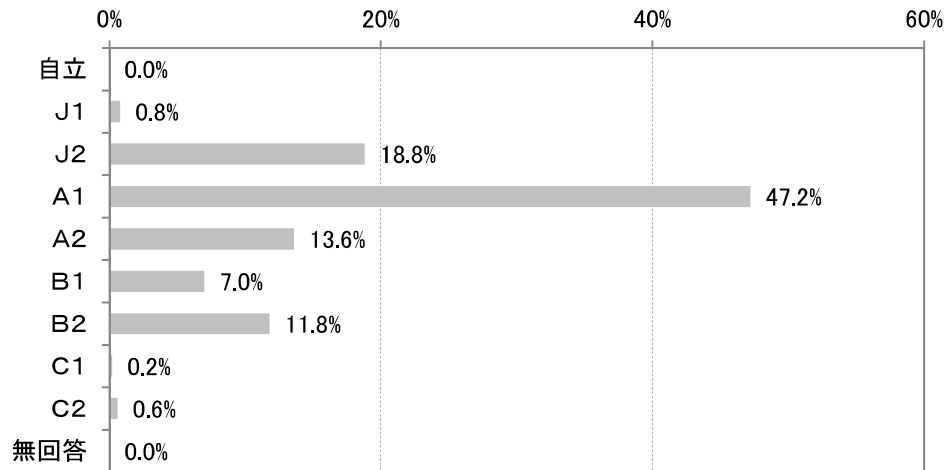
合計(n=485)



⑧障害高齢者の日常生活自立度**【SA】**

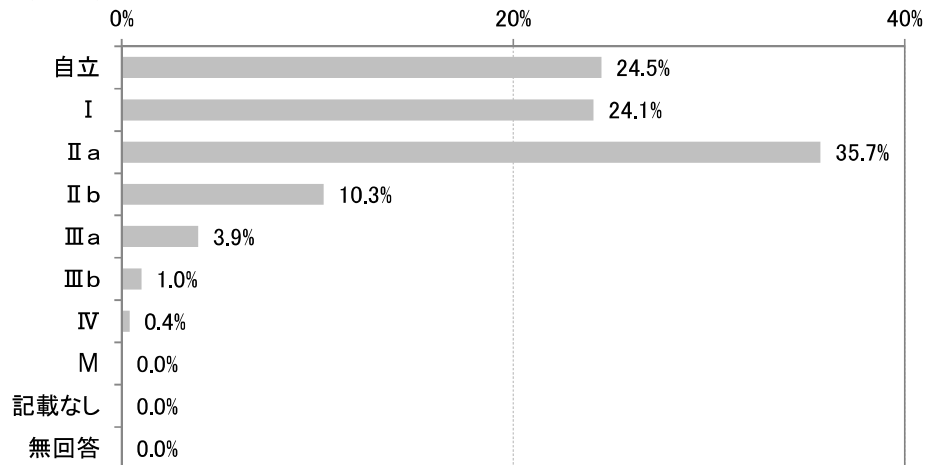
○「A1」が47.2%と最も割合が高く、次いで「J2」が18.8%、「A2」が13.6%の順となっています。

合計(n=485)

**⑨認知症高齢者の日常生活自立度****【SA】**

○「Ⅱa」が35.7%と最も割合が高く、次いで「自立」が24.5%、「Ⅰ」が24.1%の順となっています。

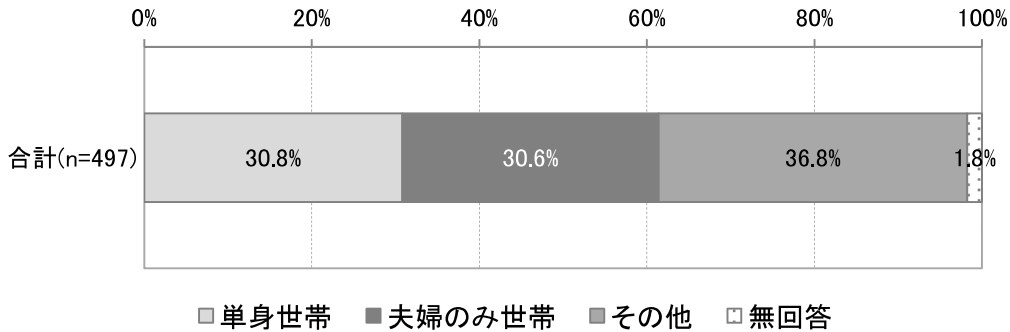
合計(n=485)



問2. 世帯類型

【SA】

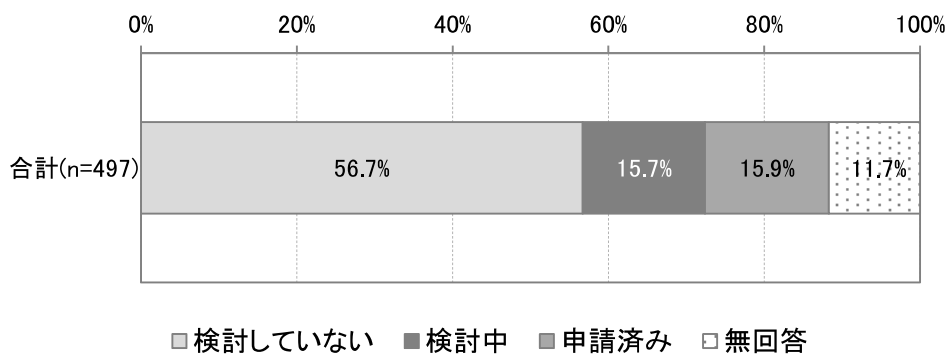
○「その他」が36.8%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が30.8%、「夫婦のみ世帯」が30.6%の順となっています。



問3. 施設等の検討状況

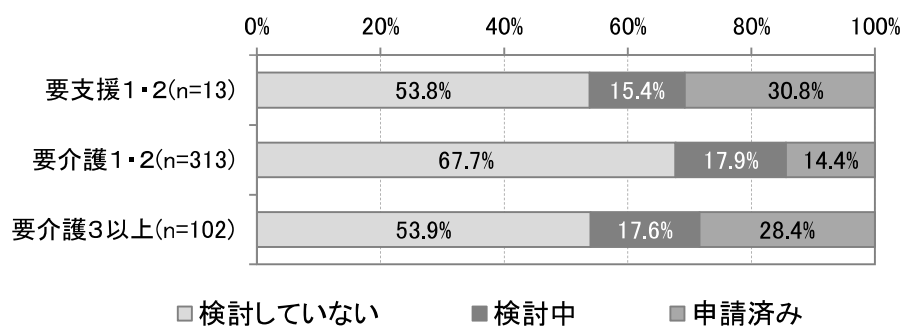
【SA】

○「検討していない」が56.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が15.9%、「検討中」が15.7%の順となっています。



○要介護度別にみると、「申請済み」は“要支援1・2”で30.8%と、他の要介護度と比べ割合が高くなっています。

【要介護度別・施設等検討の状況】

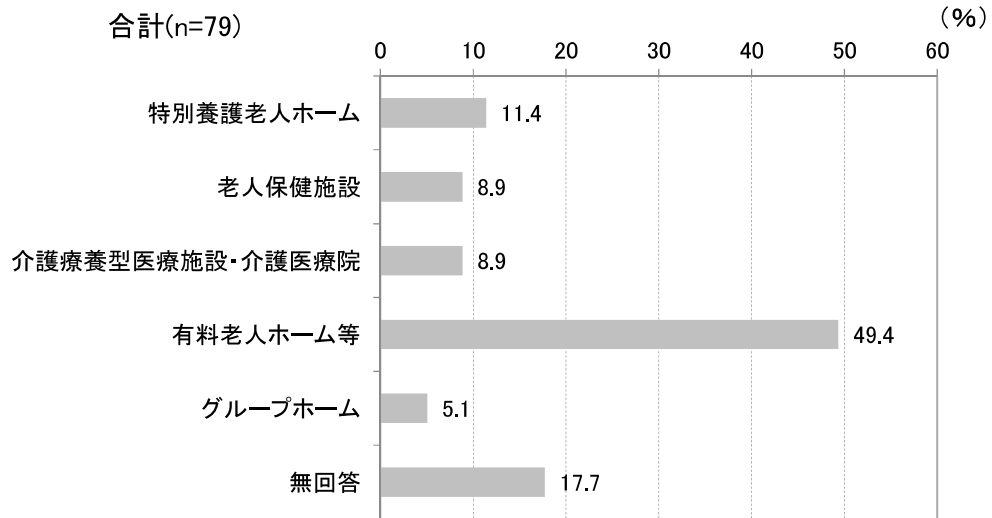


問4. 申し込み施設

【MA】

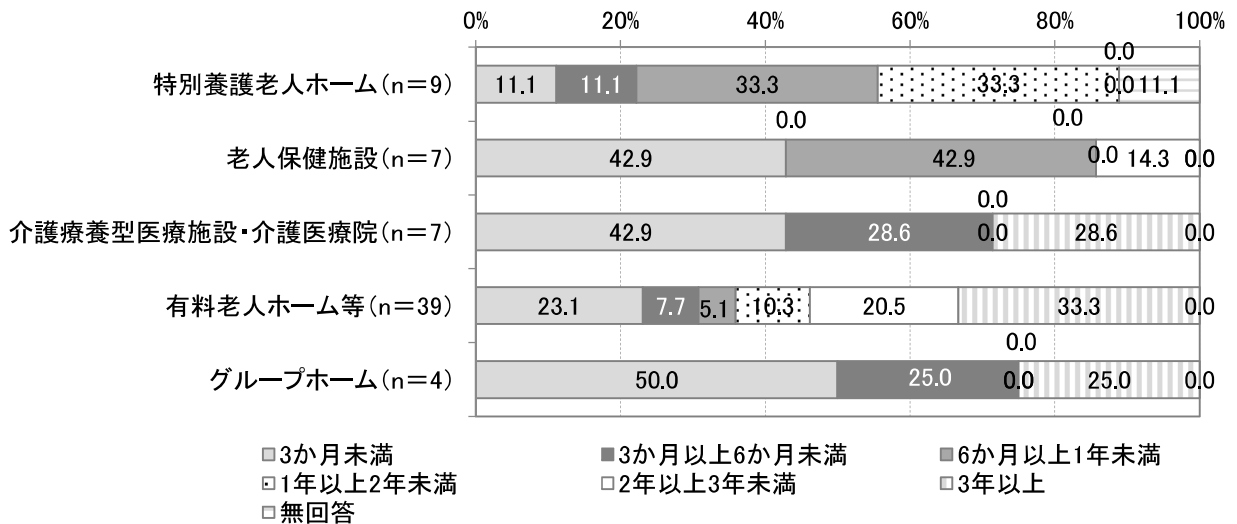
(問3で「すでに入所・入居申し込みをしている」方限定)

○申し込み施設は、「有料老人ホーム等」が49.4%で最も割合が高く、次いで「特別養護老人ホーム」が11.4%、「老人保健施設」と「介護療養型医療施設・介護医療院」が8.9%の順となっています。



【申し込まれてからの期間】

○「1年以上2年未満」「2年以上3年未満」「3年以上」を合わせた『1年以上』は、「有料老人ホーム等」が64.1%で最も割合が高く、次いで「特別養護老人ホーム」が33.3%、「介護療養型医療施設・介護医療院」が28.6%の順となっています。

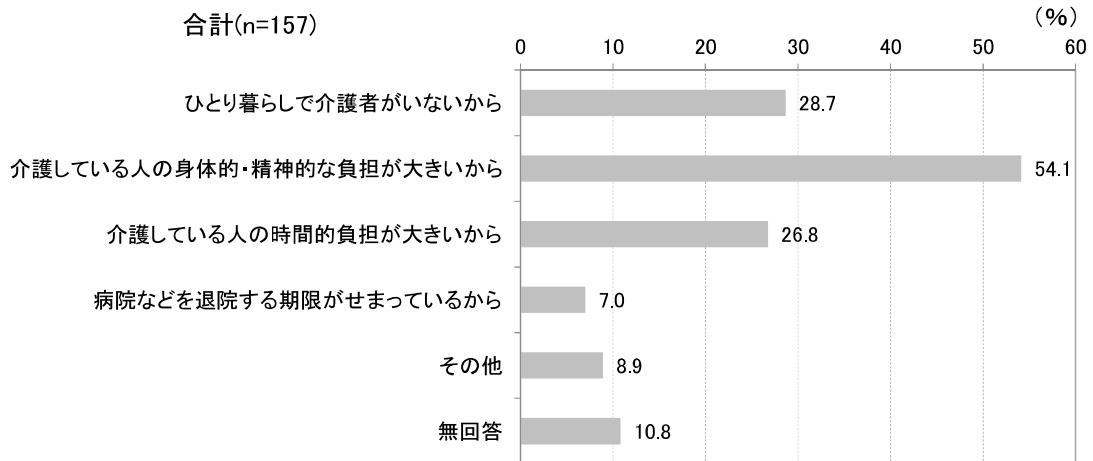


問5. 施設に入所したい理由

【MA】

(問3で「入所・入居を検討している」、「すでに入所・入居申し込みをしている」を選択した方限定)

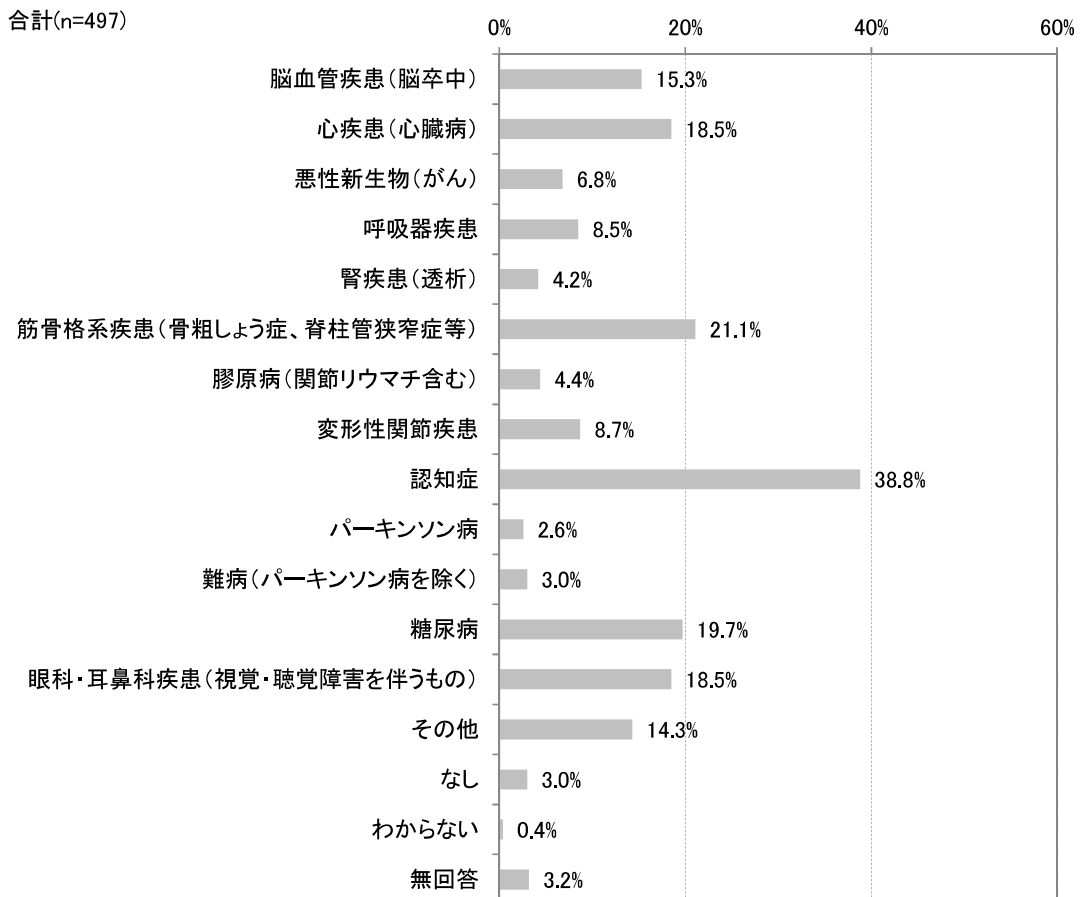
○「介護している人の身体的・精神的な負担が大きいから」が54.1%で最も割合が高く、次いで「ひとり暮らしで介護者がいないから」が28.7%、「介護している人の時間的負担が大きいから」が26.8%の順となっています。



問6. 現在抱えている傷病

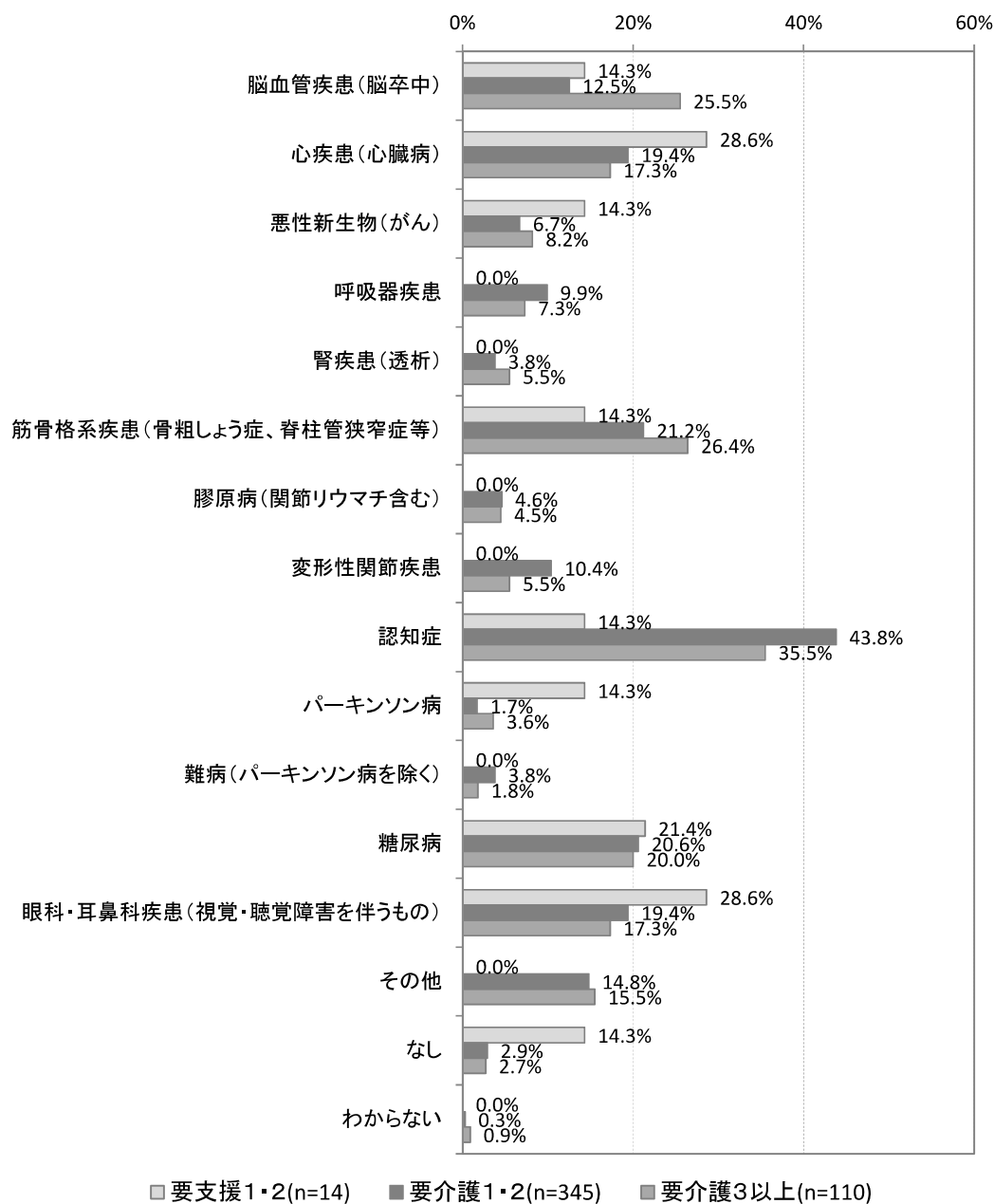
【MA】

○「認知症」が38.8%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が21.1%、「糖尿病」が19.7%の順となっています。



○要介護度別にみると、“要支援1・2”では「心疾患（心臓病）」と「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が28.6%、“要介護1・2”と“要介護3以上”では、それぞれ「認知症」が43.8%、35.5%と最も割合が高くなっています。

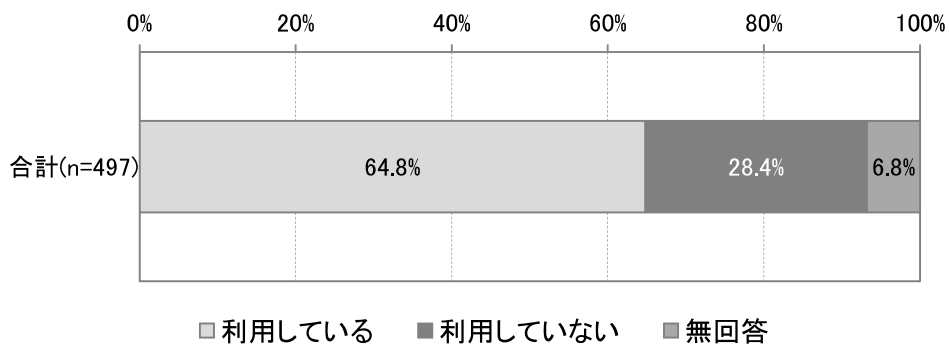
【要介護度別・抱えている傷病】



問7. 令和5年1月の介護サービスの利用の有無

【SA】

○「利用している」が64.8%、「利用していない」が28.4%）となっています。

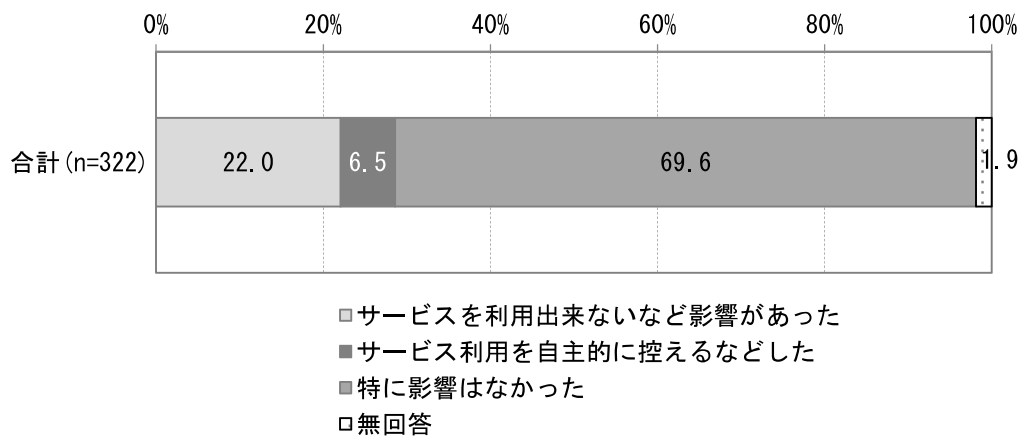


問8. 新型コロナウイルス感染症の流行による介護保険サービスの利用への影響

【SA】

（問7. で「利用している」と回答した方限定）

○「特に影響はなかった」が69.6%で最も割合が高く、次いで「サービスを利用出来ないなど影響があった」が22.0%、「サービス利用を自主的に控えるなどした」が6.5%の順となっています。



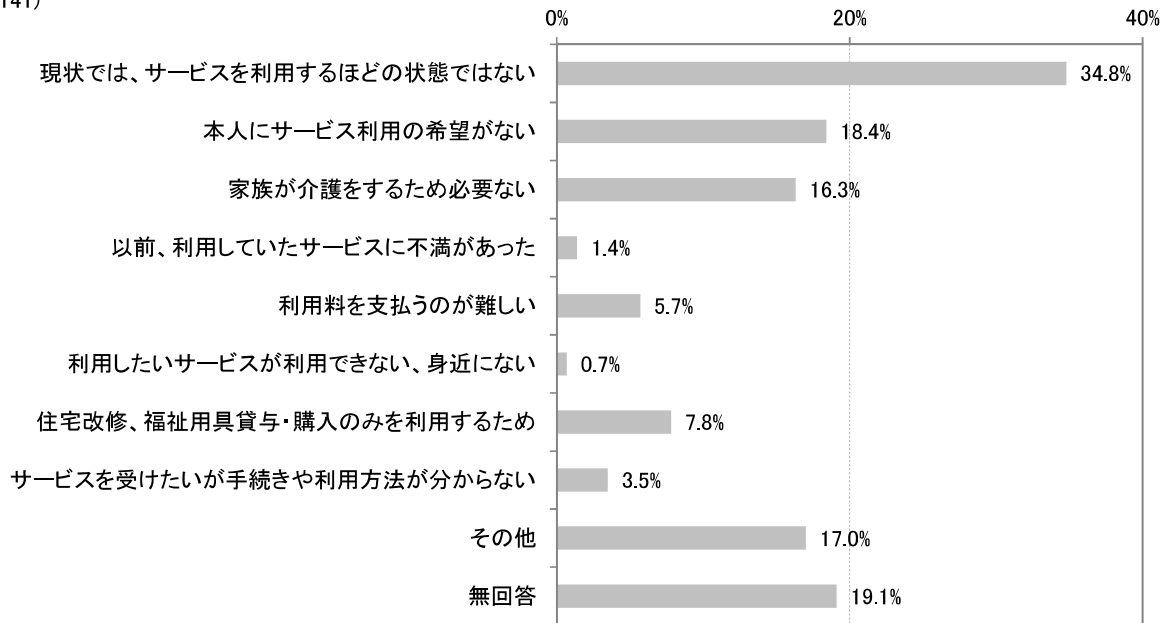
問9. 介護保険サービスを利用していない理由

【MA】

(問7. で「利用していない」と回答した方限定)

○「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が34.8%で最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が18.4%、「その他」が17.0%の順となっています。

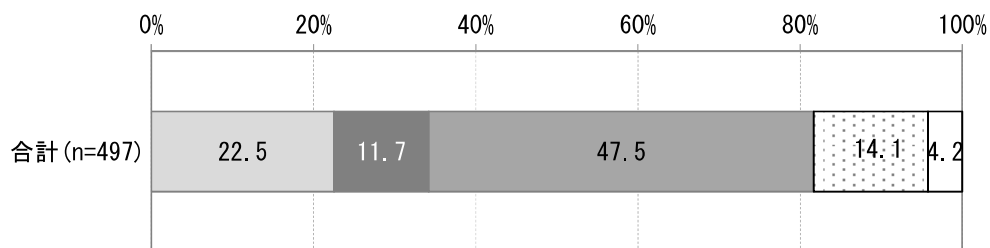
合計(n=141)



問10. 保険料の負担と介護サービスについて

【SA】

○「平均的なサービスで平均的な保険料がよい」が47.5%で最も割合が高く、次いで「介護サービスが充実するなら、保険料が高いのはやむを得ない」が22.5%、「わからない」が14.1%、「介護サービスの充実より保険料が安い方がよい」が11.7%の順となっています。

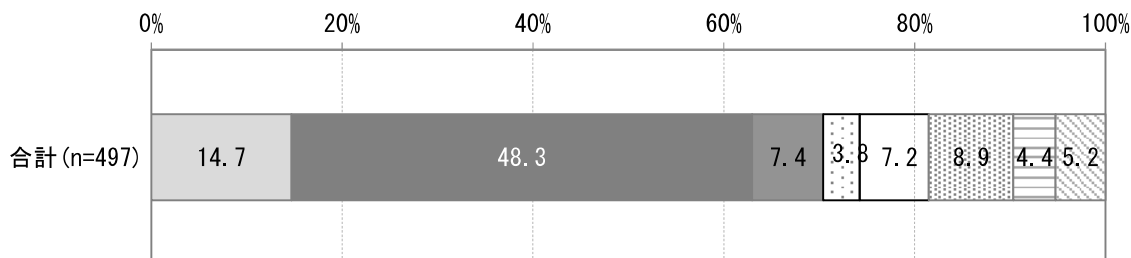


- 介護サービスが充実するなら、保険料が高いのはやむを得ない
- 介護サービスの充実より保険料が安い方がよい
- 平均的なサービスで平均的な保険料がよい
- わからない
- 無回答

問 11. 今後の望む生活について

【SA】

○「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」が 48.3%、「家族などによる介護を中心に自宅で生活したい」が 14.7%、「小規模多機能型居宅介護を利用したい（泊まりや訪問のサービスを併用しながら自宅で生活したい）」が 7.4%で、これらを合わせた『在宅希望』が 70.4%となっています。

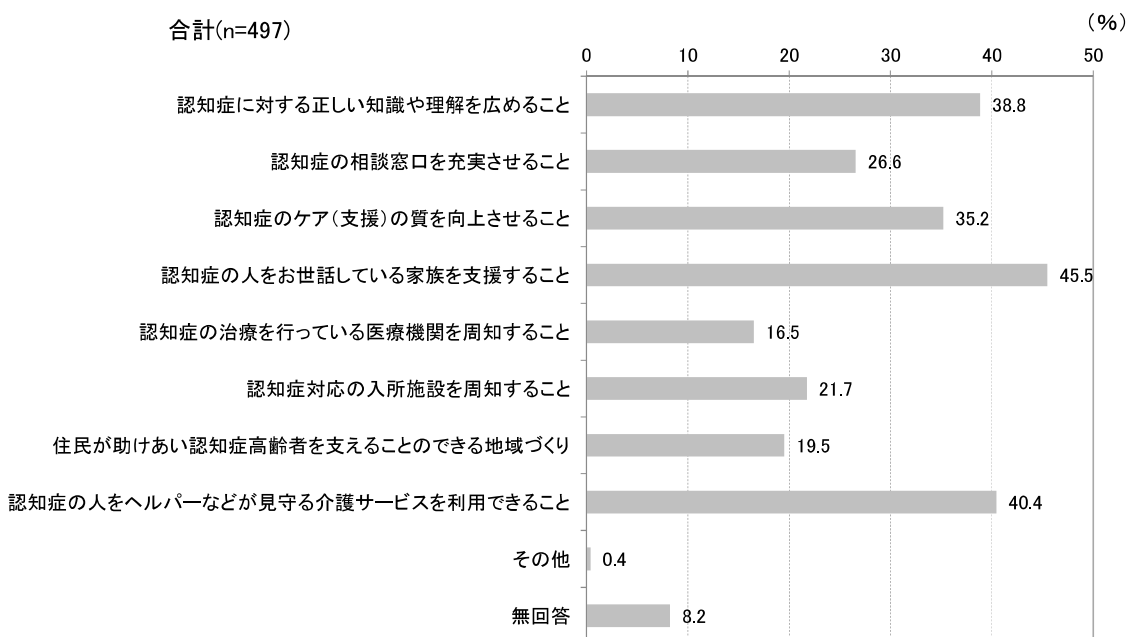


- 家族などによる介護を中心に自宅で生活したい
- 介護サービスを利用しながら自宅で生活したい
- 小規模多機能型居宅介護を利用したい（泊まりや訪問のサービスを併用しながら自宅で生活したい）
- グループホームを利用したい（認知症に対応した少人数での共同生活）
- 特別養護老人ホームなどの施設に入所したい
- わからない
- その他
- 無回答

問 12. 認知症の人が安心して暮らせるまににするために必要な取組

【MA】

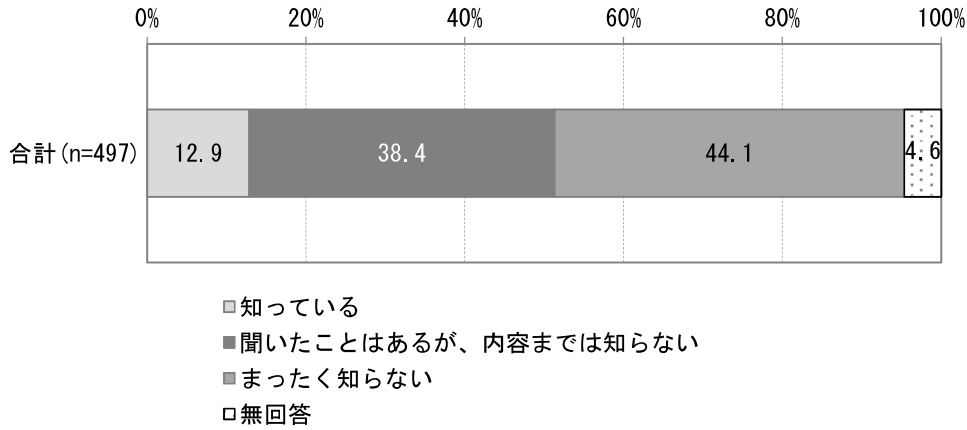
○「認知症の人をお世話している家族を支援すること」が 45.5%で最も割合が高く、次いで「認知症の人をヘルパーなどが見守る介護サービスを利用できること」が 40.4%、「認知症に対する正しい知識や理解を広めること」が 38.8%の順となっています。



問 13. 認知症サポーターの認知度

【SA】

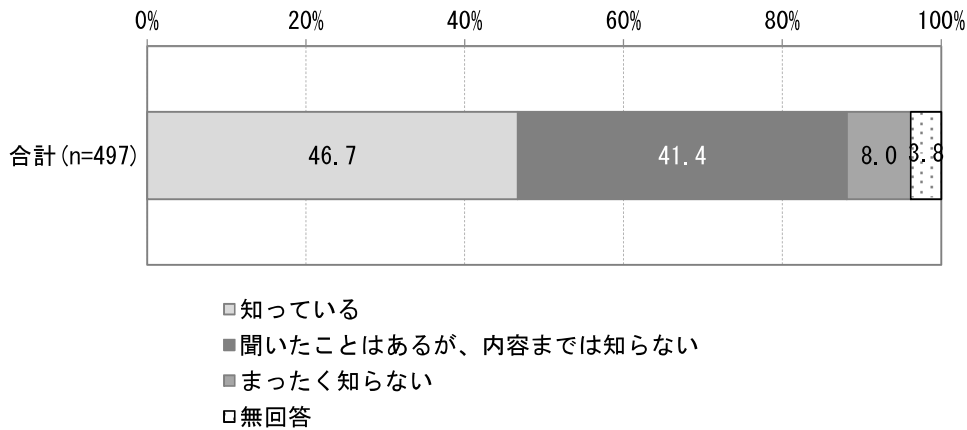
○「まったく知らない」が 44.1%で最も割合が高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 38.4%、「知っている」が 12.9%の順となっています。



問 14. 高齢者虐待の認知度

【SA】

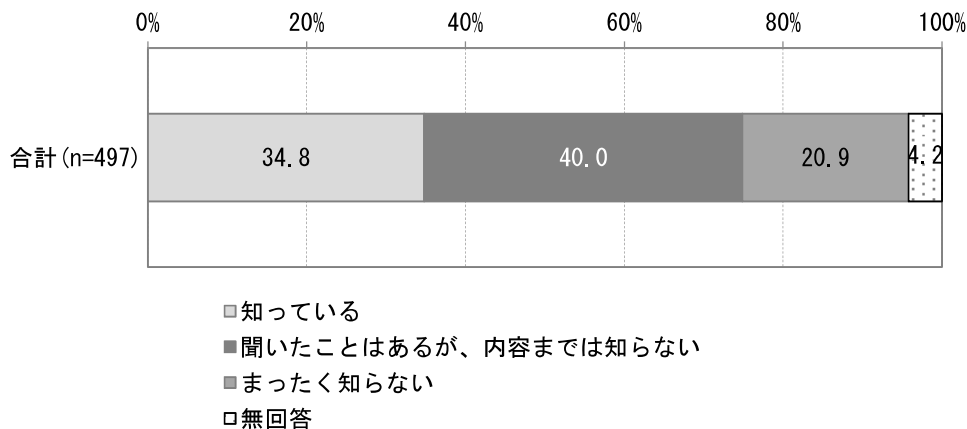
○「知っている」が 46.7%で最も割合が高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 41.4%、「まったく知らない」が 8.0%の順となっています。



問 15. 成年後見制度の認知度

【SA】

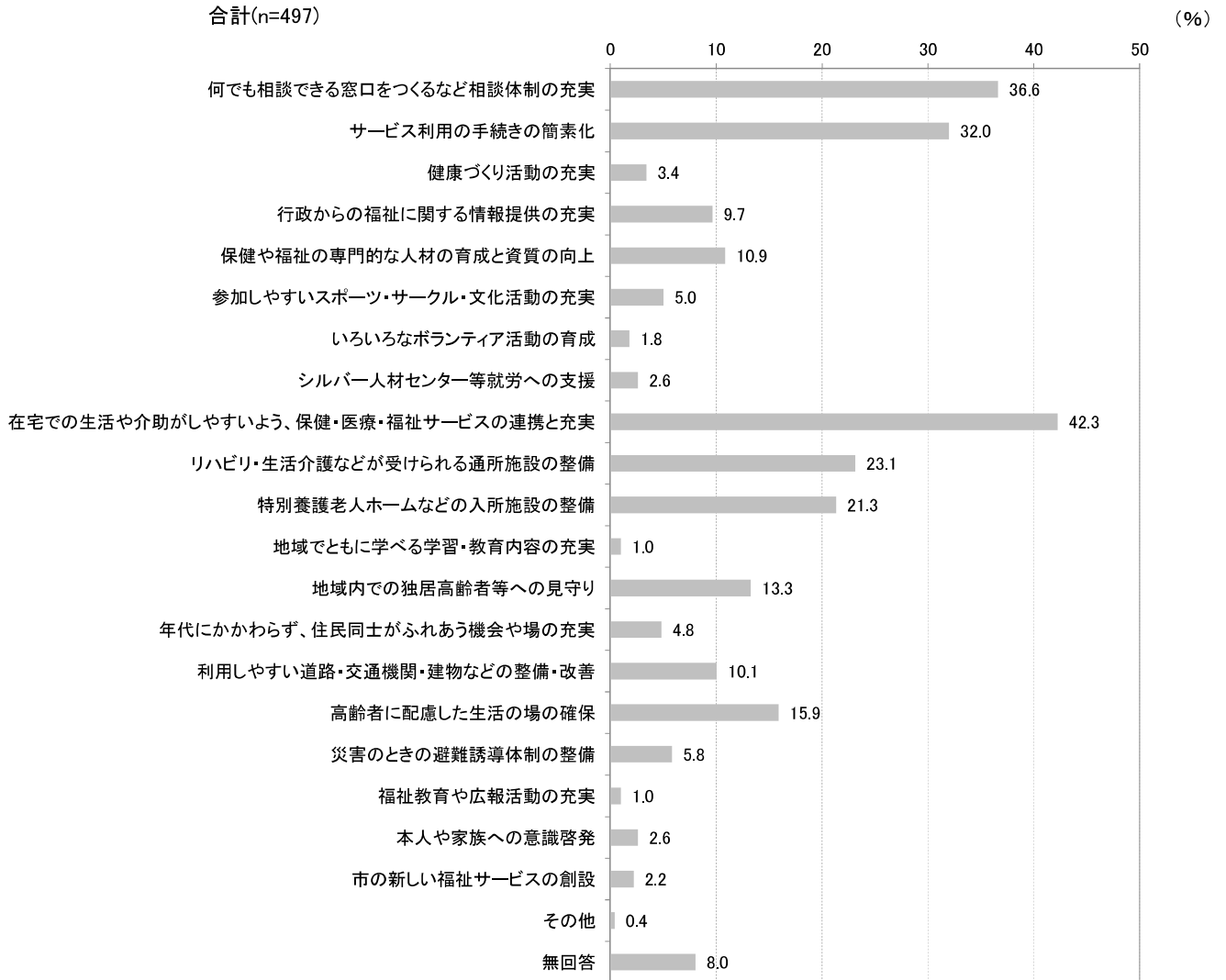
○「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 40.0%で最も割合が高く、次いで「知っている」が 34.8%、「まったく知らない」が 20.9%の順となっています。



問 17. 高齢者が健やかに過ごすために、力を入れる施策

【MA】

○「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉サービスの連携と充実」が 42.3%で最も割合が高く、次いで「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」が 36.6%、「サービス利用の手続きの簡素化」が 32.0%の順となっています。



B票 主な介護者について

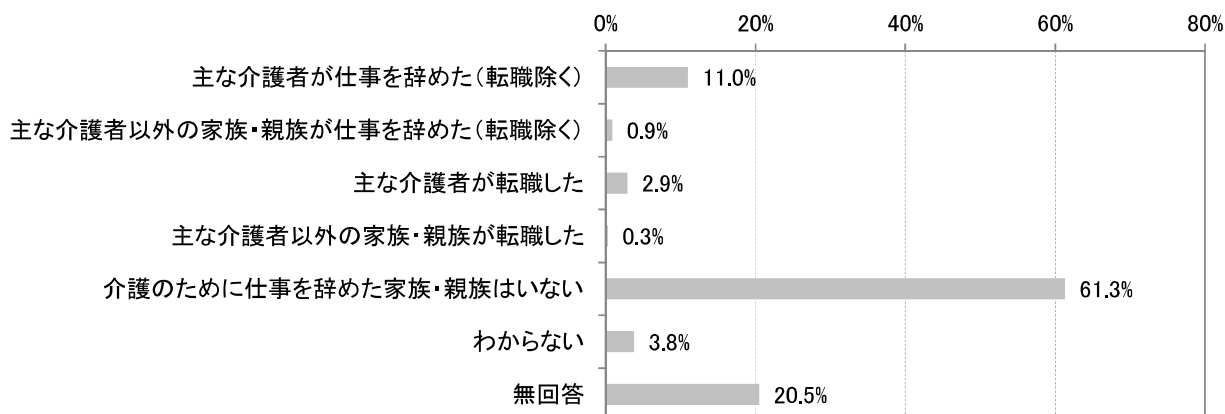
【A票の間 18 で「2」～「5」を選択した方(家族からの介護がある方)限定】

問1. 介護のための離職の有無

【MA】

○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が61.3%で最も割合が高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が11.0%、「わからない」が3.8%の順となっています。

合計(n=346)

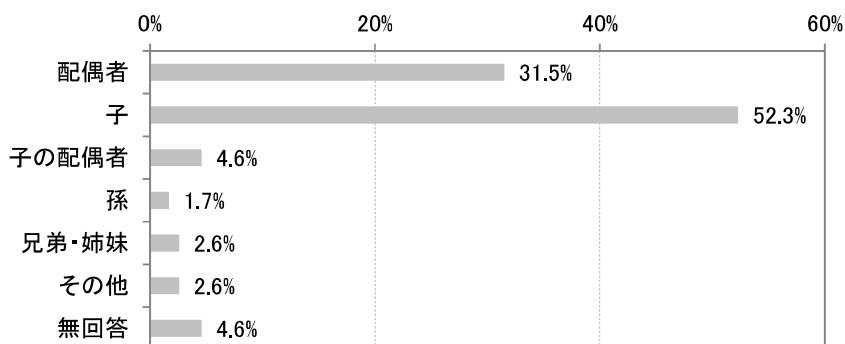


問2. 主な介護者の本人との関係

【SA】

○「子」が52.3%で最も割合が高く、次いで「配偶者」が31.5%、「子の配偶者」が4.6%の順となっています。

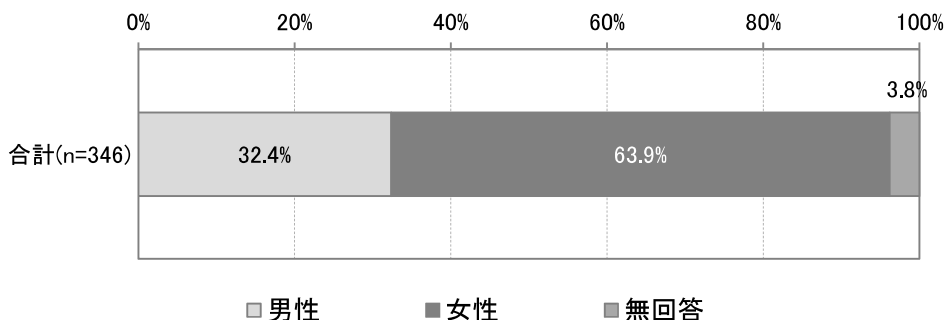
合計(n=346)



問3. 主な介護者の性別

【SA】

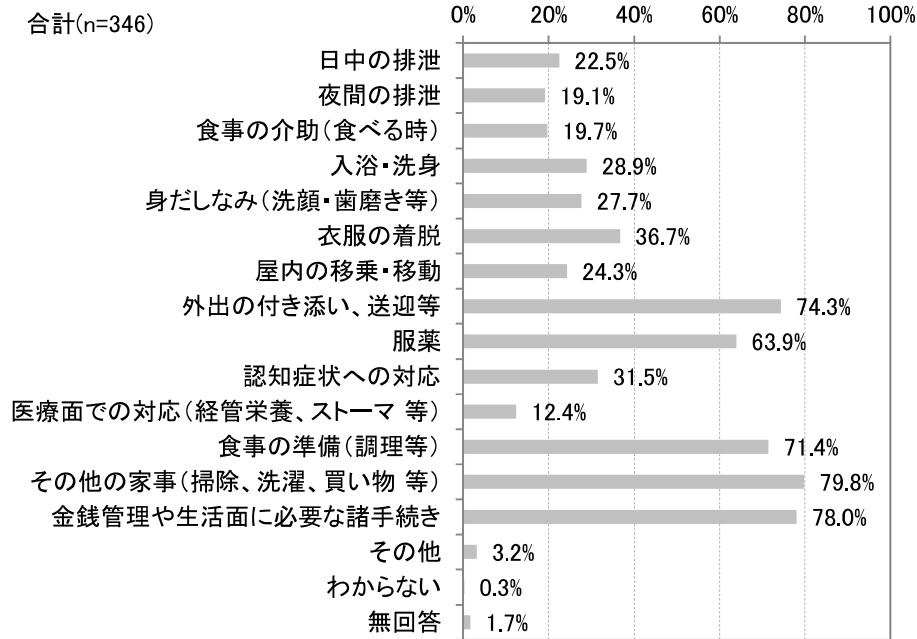
○「女性」が63.9%、「男性」が32.4%となっています。



問5. 主な介護者が行っている介護

【MA】

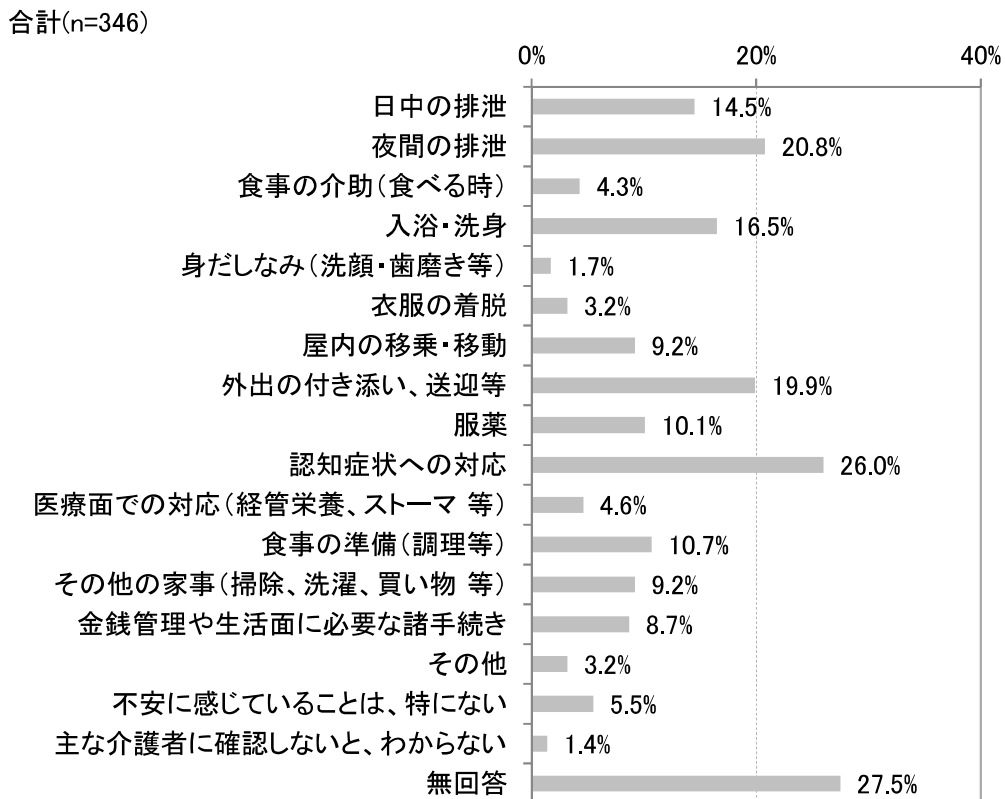
○「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が79.8%で最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が78.0%、「外出の付き添い、送迎等」が74.3%の順となっています。



問6. 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

【MA】

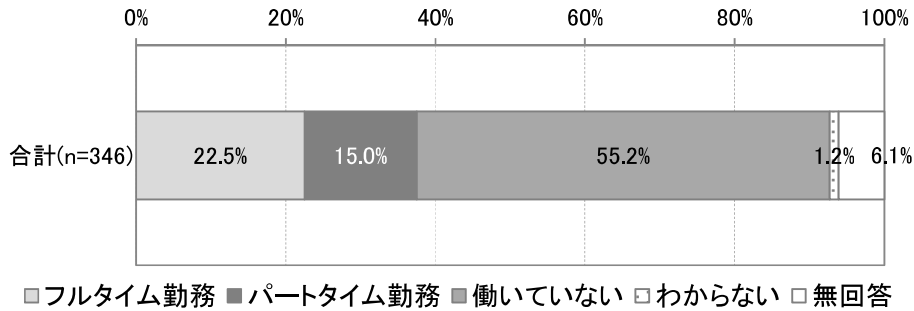
○「認知症状への対応」が26.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が20.8%、「外出の付き添い、送迎等」が19.9%の順となっています。



問7. 主な介護者の就労状況

【SA】

○「働いていない」が55.2%と最も割合が高く、次いで「フルタイム勤務」が22.5%、「パートタイム勤務」が15.0%の順となっています。

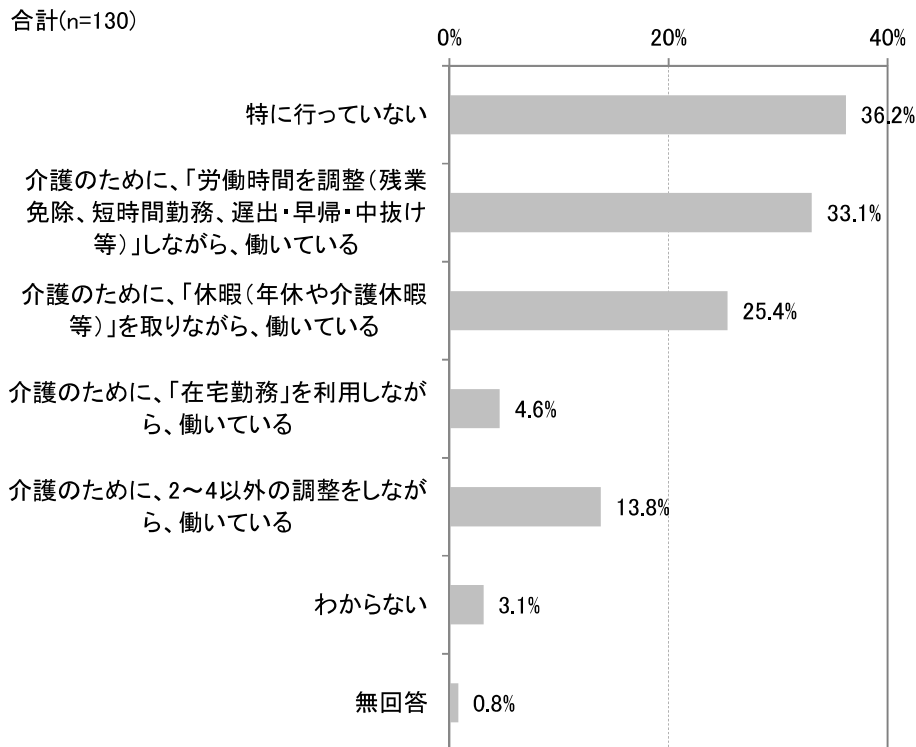


問8 主な介護者の方の働き方の調整の状況

【MA】

(問7で「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」を選択した方(介護者が働いている方)限定)

○「特に行っていない」が36.2%で最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が33.1%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が25.4%の順となっています。



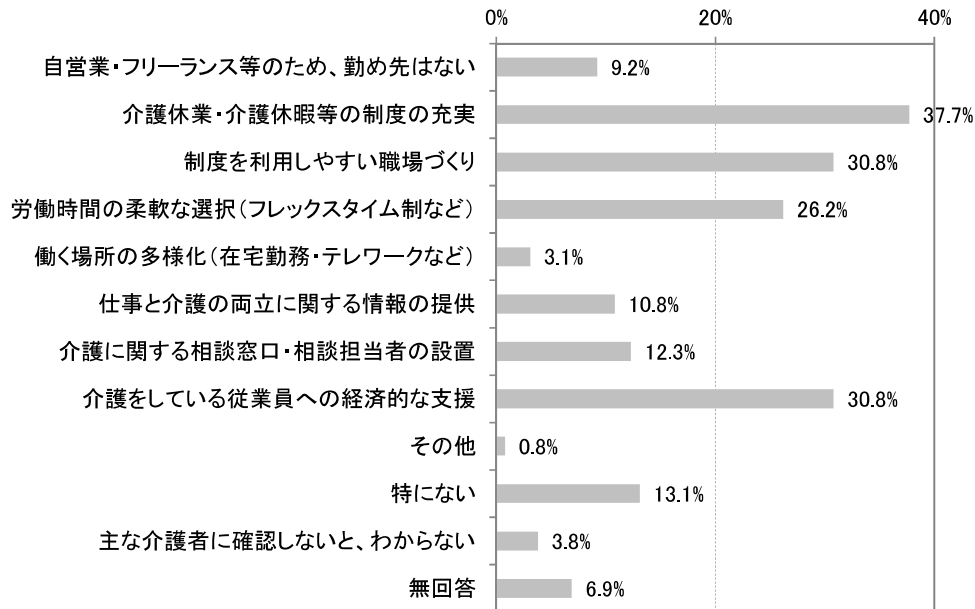
問9 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

【MA】

(問7で「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」を選択した方(介護者が働いている方)限定)

○「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が37.7%で最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」と「介護をしている従業員への経済的な支援」が30.8%の順となっています。

合計(n=130)

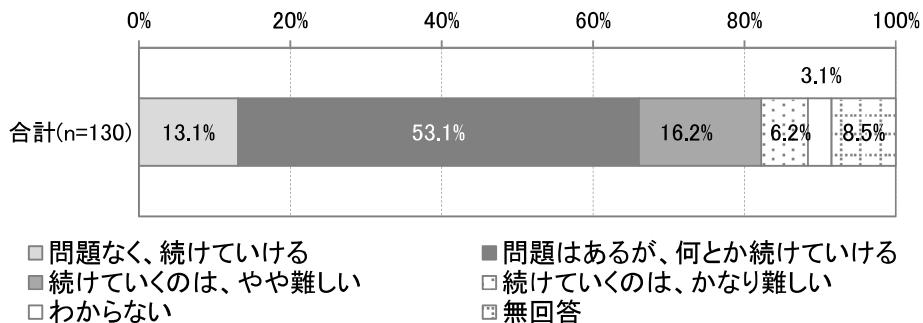


問10 今後の勤務継続見込み

【SA】

(問7で「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」を選択した方(介護者が働いている方)限定)

○「問題はあるが、何とか続けていける」の53.1%と「問題なく、続けていける」の13.1%を合わせた『続けていける』が66.2%、「続けていくのは、やや難しい」の16.2%と「続けていくのは、かなり難しい」の6.2%を合わせた『難しい』が22.4%となっています。



第3章 調査結果の総括

I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ～日常生活圏域(小学校区)別特徴～

小学校区	中間 14.2%	底井野 7.1%	中間東 24.8%	中間西 13.5%	中間南 28.0%	中間北 9.7%
年齢(後期高齢者割合)	54.0%	52.0%	54.0%	51.0%	54.7%	46.2%
家族構成 「ひとり暮らし」	23.9%	10.6%	21.3%	16.9%	17.9%	27.3%
介護・介助を 受けている	8.0%	6.4%	4.9%	5.6%	4.9%	9.4%
暮らしの経済的な状況 『苦しい』	45.4%	28.7%	42.4%	38.2%	31.9%	47.6%
毎日誰かと食事をと もにする機会	58.3%	67.0%	60.1%	61.2%	64.5%	60.2%
外出の機会『減っている』	39.3%	30.9%	33.2%	36.0%	32.5%	34.4%
会・グループへの参加 頻度(『週1回以上』、圏 域で最も高いもの)	介護予防の ための通い の場	スポーツ、趣 味、町内会、 仕事	-	ボランティ ア	教養サーク ル、老人ク ラブ	-
心配事や愚痴を聞いて くれる人「いない」	5.5%	4.3%	3.7%	2.8%	4.6%	6.3%
主観的健康感『健康』	72.4%	77.6%	74.4%	74.7%	82.4%	73.5%
主観的幸福感(平均点)	6.96	7.23	7.03	6.81	7.25	6.74
感染症の影響による精神 的・身体的な変化『あった』	19.6%	20.2%	18.3%	22.5%	18.5%	23.5%
運動器機能低下	22.7%	16.0%	16.2%	19.7%	15.2%	17.2%
転倒リスク	36.2%	27.7%	30.2%	29.2%	30.4%	28.9%
閉じこもり傾向	22.1%	22.3%	23.8%	24.2%	19.2%	22.7%
認知機能低下	47.2%	37.2%	43.6%	42.7%	40.4%	36.7%
うつ傾向	44.8%	45.7%	44.5%	44.9%	42.5%	39.8%
IADL「低い」	11.0%	12.8%	6.4%	4.5%	6.8%	7.8%
認知症の症状がある・ まわりにいる	11.0%	9.6%	10.1%	12.9%	7.3%	11.7%
認知症相談窓口の 認知度	16.6%	22.3%	16.8%	23.6%	17.1%	18.0%
高齢者虐待の認知度	32.5%	42.6%	32.9%	33.7%	37.9%	35.2%
成年後見制度の認知度	30.7%	33.0%	24.7%	29.8%	30.1%	20.3%
災害で手助けしてくれ る人がいない	8.0%	2.1%	4.6%	5.1%	7.3%	8.6%

※「-」は平均的であり、目立った特徴がない場合

※■：不健康である等の特徴、■：健康である等の特徴、■：その他の特徴的な結果

II 在宅介護実態調査

●調査対象者について

- 後期高齢者が8割以上で、要介護度は「要介護1・2」が7割以上、認知症高齢者の日常生活自立度は「自立」と「I」が約5割となっています。
- 単身世帯が30.8%で、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の対象者に比べ、10.3ポイント高くなっています。

●介護保険サービス

- 介護保険サービスは、64.8%の方が利用しています。利用していない主な理由は、「利用するほどの状態ではない」で、要介護度が低い方（要介護1・2）に多い理由となっており、要介護度が重度の方（要介護3以上）では「本人にサービス利用の希望がない」が最も高い割合となっています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響でサービスの利用ができなかったり、利用を控えた方が約3割みられます。
- 施設等の検討については、要支援1・2の方や単身世帯で「申請済み」の割合が高くなっており、申し込み施設は有料老人ホームが多くなっています。
- 保険料の負担と介護サービスについては、平均的なサービスで平均的な保険料を望む方が多くなっています。
- 今後の生活は、「介護サービスを利用しながら自宅で生活したい」と考えている方の割合が最も高く、全体では『在宅希望』が7割以上となっています。

●認知症

- 現在抱えている傷病のうち「認知症」は約4割の方が抱えており、要介護度別にみると要介護1～5では最も割合が高くなっています。
- 認知症の人が安心して暮らすために必要な取組みとしては、前回調査と同様に「認知症の人をお世話している家族を支援すること」、「認知症に対する正しい知識や理解を広めること」「認知症の人をヘルパーなどが見守るサービスを利用できること」が上位に挙がっています。

●力を入れるべき施策

- 前回調査と同様に、「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉サービスの連携と充実」をはじめ「何でも相談できる窓口をつくるなど相談体制の充実」や「サービス利用の手続きの簡素化」が上位を占め、サービスの充実とともに、相談体制の充実や手続きの効率も同時に求められています。特に「在宅での生活や介助がしやすいよう、保健・医療・福祉サービスの連携と充実」については、前回調査と比べて7.1ポイント増加しています。

●主な介護者と介護の内容

- 主な介護者は、子と配偶者中心となっており、介護者の性別は6割以上が女性です。
- 家族等による介護の頻度は、ほぼ毎日の方が45.1%で、単身世帯や夫婦のみ世帯に比べ、その他の世帯の割合が高くなっています。
- 掃除や洗濯、食事等の家事、金銭管理、外出の付き添い等が介護項目として多くなっていますが、不安に感じている介護項目としては、認知症状への対応が2割以上と最も割合が高くなっています。

●介護者の就労継続

- 介護のために仕事を辞めた方が、約1割となっています。
- 現在、就労中の介護者は約4割でフルタイムの方の方がパートタイムの方よりも多く、約6割の方は、何らかの働き方の調整を行いながら就労しています。
- 介護と仕事の両立には、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「介護をしている従業員への経済的な支援」「制度を利用しやすい職場づくり」等の支援が必要と考えられており、3人に2人は今後も仕事を『続けていける』と考えています。